

Print edition:ISSN 2435-5151

高鍋町美術館
TAKANABE MUSEUM OF ART

年 報

平成30年度

ANNUAL REPORT 2018

目次

I	沿革	p. 5
II	展覧会	p. 6
1.	常設展	p. 6
(1)	版画の魅力と美術館名品展	p. 7
(2)	没後 25 年道北昭介と美術館名品展	p. 9
2.	特別展	p. 11
(1)	ルーヴル美術館の銅版画展	p. 11
3.	企画展	p. 15
(1)	第 15 回高鍋町美術展覧会（無審査展）	p. 15
(2)	宮崎アーティストファイル シンプル展	p. 18
(3)	96 歳の現代美術家・齋藤秀三郎「文明キャベツ」	p. 20
(4)	第 20 回西都・児湯の子どもたちによる絵画展	p. 23
(5)	第 18 回高鍋高校美術・書道部展	p. 34
(6)	高鍋町美術館実技講座生徒作品展	p. 37
III	普及活動	p. 38
1.	美術講演会	p. 38
2.	美術教室	p. 38
(1)	ワークショップ（申込型）	p. 38
(2)	ワークショップ（募集型）	p. 38
3.	ギャラリートーク	p. 38
4.	インターンシップ	p. 38
5.	社会見学	p. 38
IV	施設利用	p. 39
1.	展示室	p. 39
(1)	常設展月別観覧者	p. 39
(2)	展覧会観覧者	p. 40
2.	多目的ホール・実習室	p. 42

V	収蔵資料	p. 4 6
1.	作品収蔵状況	p. 4 6
2.	資料の貸出	p. 4 6
VI	学芸員記録 (culture)	p. 4 7
VII	法令	p. 5 9
1.	高鍋町美術館基金の設置、管理及び処分に関する条例	p. 5 9
2.	高鍋町美術館の設置及び管理に関する条例	p. 6 0
3.	高鍋町美術館管理運営規則	p. 6 5
4.	高鍋町美術館協議会規則	p. 7 1
5.	高鍋町美術館美術作品等収入審査委員会運営要綱	p. 7 2
VIII	名簿	p. 7 4
1.	美術館協議会	p. 7 4
2.	職員	p. 7 4

I 沿革

高鍋町美術館（以下「美術館」という。）は、郷土の教育や学術及び文化向上に資するために、県内では唯一、町立の美術館として建設された。計画は、町制施行90周年記念事業として決定されたものである。すなわち、1988（昭和63）年「ふるさと創生事業」において町民に提案された3項目①石井十次先生の顕彰、②国際的視野を持った人材の育成、③高鍋城址舞鶴公園総合整備計画の策定のうち、③の計画のなかに「歴史あふれた文化を学ぶことのできる美術館を中心とした三の丸ゾーン」が位置付けられ、美術館構想が提案されたものである。城堀の内側、藩政時代の上級武士屋敷街の西端に建ち、1999（平成11）年に開館した。

平成 3 年	「美術館建設検討委員会」が設置される
平成10年	「高鍋町美術館運営検討委員会」が設置される 「高鍋町美術館開館準備室」が設置される
平成11年 4 月	「高鍋町美術館基金の設置、管理及び処分に関する条例」が施行される 「高鍋町美術館の設置及び管理に関する条例」が施行される 「高鍋町美術館管理運営規則」が施行される 「高鍋町美術館協議会規則」が施行される 「高鍋町美術館美術作品等収集審査委員会運営要綱」が施行される
平成11年 4 月	土公武二郎初代館長就任
平成11年 9 月	建物が完成する
平成11年11月	美術館開館
平成13年 4 月	石井秀隣館長就任
平成17年 4 月	田中隆吉館長就任
平成23年 4 月	萱嶋稔教育長が館長兼任
平成24年 4 月	安井雄一郎館長就任
平成26年 4 月	萱嶋稔教育長が館長兼任
平成26年 7 月	萱嶋稔館長就任
平成30年 4 月	稲井義人社会教育課長が館長兼任
平成30年 7 月	島埜内遵館長就任

Ⅱ 展覧会

1. 常設展

高鍋町は、江戸時代から教育の藩と言われ、古くから多くの優秀な人材が育成された。長い歴史のなかで、高鍋藩・秋月家のなかでも特に美術に造詣の深い秋月種樹や秋月可山、多くの美術家を育てた有田四郎、平原美夫をはじめ、河野扶、道北昭介など優れた作家を輩出している。また、高鍋町出身で児童福祉の父と呼ばれる石井十次の娘婿は岡山県の画家・児島虎次郎であり、児島もまた幾度となく高鍋町に足を踏み入れている。当館では、こうした郷土作家の系譜コレクションと宮崎ゆかりの作品、また、姉妹都市協定を結んでいる山形県米沢市の名品など、19世紀の後半から現代に至るまでの作品を収蔵している。

常設展では、1年に2回の展示替えを行い、毎回テーマを設けて約800点に及ぶ所蔵品のなかから紹介している。

(1) 版画の魅力と美術館名品展

前期はテーマを「版画の魅力と美術館名品展」として、当館の季節を感じさせる名品と版画の作品を中心に展示した。版画は英語で print というように、本来は同一画像を複数得るために工夫されたものであったが、現代ではそれぞれの技法の生み出す質感や効果のために制作されることも多くなった。時代とともにその技術は役割を変え、版画はより記録的な要素よりも美術的な要素を色濃くした稀有な技法といっても過言ではない。版画の技法・歴史・表現の幅広さを改めて実感することができる内容となった。また、郷土の偉人・石井十次にまつわる作品も併せて展示した。



会 期

平成30年3月31日（土）～平成30年9月2日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観 覧 料

大人210円（168円） 小中高生・高齢者・障がい者100円（80円）

※（ ）内は20名以上の団体料金。未就学児は無料。

会 場

高鍋町美術館

主 催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

出 品 数

20点

観覧者数

4,294人

常設展「版画の魅力と美術館名品展」展示リスト

平成30年3月31日(土)～9月2日(日)

展示順	作品名	作家名	技法
1	萬年枝上太平雀	鈴木 馬左也	書
2	七律双書	西郷 南洲	書
3	書	徳富 蘇峰	書
4	石井十次肖像画	鱸 利彦	油彩画
5	宇野風景	池田 遥邨	日本画
6	日本刀 刀剣	和泉守 国貞	日本刀
7	日本刀	国次	日本刀
8	六角菓子箱陶篭	高橋 誠	陶芸
9	白銀波状文扁壺 解読自由の象形文字	森野 泰明	陶芸
10	混血の踊り子	ジョアン・ミロ	リトグラフ(石版)
11	世森田勘弥の駕籠昇鶯の治郎作	東洲斎 写楽	浮世絵(木版)
12	横浜異人館之図	歌川 芳員	浮世絵(木版)
13	忠臣蔵討入	歌川 芳虎	浮世絵(木版)
14	富嶽秋耀	奥田 元宋	リトグラフ(石版)
15	仮面	ルイ・イカール	パステル画
16	メニュー・オリジナル	ルイ・イカール	リトグラフ(石版)
17	赤いフーラル	山田 新一	シルクスクリーン
18	蜜蜂	加山 又造	水墨画
19	蛾	加山 又造	メゾティント(銅版)
20	メタモルフォース	加山 又造	メゾティント(銅版)

(2) 没後 25 年 道北昭介と美術館名品展

後期はテーマを「没後 25 年 道北昭介と美術館名品展」として、当館所蔵の道北昭介作品を中心に展示した。道北は 1930（昭和 5）年高鍋町六日町に生まれた。小学校教員として 36 年間勤務したのち、実家の旅館を継ぐことを決め、そのかわり画業に本格的に取り組む、多くの作品を残している。生涯一貫して抽象画を描いており、さまざまな形の組み合わせによる緻密な構成が特徴である。平成 30 年度は、道北が亡くなってから 25 年となる年であった。いまでも変わらず輝き続ける道北作品の魅力を、改めて感じていただく機会とした。また、秋月家にまつわる作品や、季節を感じさせてくれる当館の名品と併せて展示した。



会 期

平成 30 年 9 月 15 日（土）～平成 31 年 3 月 24 日（日）

開館時間

午前 10 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

休 館 日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観 覧 料

大人 210 円（168 円） 小中高生・高齢者・障がい者 100 円（80 円）

※（ ）内は 20 名以上の団体料金。未就学児は無料。

会 場

高鍋町美術館

主 催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

出 品 数

20 点

観覧者数

1,294 人

常設展「没後25年道北昭介と美術名品展」展示リスト

2018年9月15日(土)～2019年3月24日(日)

展示順	個票 番号	作品名	作家名	技法
1	590	尾鈴山風景	道北 昭介	油彩画
2	487	上杉鷹山公	富田 昭正	油彩画
3	426	後醍醐天皇と楠木正成	秋月 可山	日本画
4	17	叨恩進講掛軸	秋月 種樹	書
5	120	海浜冬日	平原 美夫	油彩画
6	託72	蘭文	高野 長英	書
7	473	日本刀 刀剣	和泉守 国貞	日本刀
8	432	日本刀	国次	日本刀
9	48	織部印華文飾壺	児島 塊太郎	陶器
10	託124	陶彩景秋草図面取壺 萩壺四季絵壺	十二代 坂 高麗左衛門	陶器
11	586	跡(赤)	道北 昭介	油彩画
12	587	跡(黄)	道北 昭介	油彩画
13	591	土の祭り	道北 昭介	油彩画
14	593	地	道北 昭介	油彩画
15	594	雲の世界	道北 昭介	油彩画
16	588	土の祭り	道北 昭介	油彩画
17	206	ピエロの終日	道北 昭介	油彩画
18	589	無題	道北 昭介	油彩画
19	託519	斎藤角太郎肖像	有田 四郎	油彩画
20	205	けはい	河野 扶	油彩画

2. 特別展

(1) ルーヴル美術館の銅版画展

近年、当館では家族での来場が多い夏休みに合わせて、通常の企画展よりも規模の大きな特別展を開催している。これは、日頃美術に親しみのない方にも関心を持っていただけるような展示内容で実施し、年に1度は美術館へ足を運んでいただくきっかけとなることを目的としている。このような機会の提供は、美術館を身近に感じ、また、その子どもたちが親となった時に美術館に足を運ぶ展開を長期的なビジョンで見据えている。

数々の名画で知られるルーヴル美術館。そのコレクションの中でもカルコグラフィーはあまり知られていない。カルコグラフィーとは、銅版画と、その原版コレクションの保管室を意味し、ルーヴル美術館ではルイ14世の時代から現代まで、豊かなカルコグラフィーコレクションが形成されてきた。ルーヴルやヴェルサイユ宮殿の歴史を描きだし、絵画の記録と知識の伝達に寄与しながら、近代以降にはひとつの芸術表現として確立されたカルコグラフィー。その知られざるコレクションとルーヴル美術館の世界を、より身近に感じていただける展覧会となった。

会 期

平成30年7月21日（土）～9月2日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観 覧 料

大人800円（600円）

小中高生・高齢者・障がい者400円（300円）

※（ ）内は前売り料金および20名以上の団体料金。未就学児は無料。

※高齢者料金は70歳以上。

※障がい者料金は障がい者手帳所持者とその介護者1名まで。

会 場

高鍋町美術館

主 催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町・UMKテレビ宮崎

協 力

RMN-GP（フランス国立美術館連合-グランパレ）

ルーヴル美術館カルコグラフィー室

a m f（アジャンス・デ・ミュゼ・フランセ）

企画協力

ステップ・イースト

映像提供

DNPアートコミュニケーションズ（MMM）

後 援

宮崎県・宮崎県教育委員会・宮崎県市町村教育委員会連合会・宮崎日日新聞社・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞西部本社・西日本新聞社・夕刊デイリー新聞社・NHK宮崎放送局・MR T宮崎放送・エフエム宮崎

前売り券販売所

●高鍋町内

高鍋町美術館・高鍋温泉めいりんの湯・認定NPO法人 高鍋町観光協会・津久見屋果實店・田中書店高鍋店・TSUTAYAたかなべ店

●宮崎市内

みやざきアートセンター・宮崎山形屋プレイガイド・宮交シティ・青木画材店・ひまわり画材料店

●川南町内

サンA川南文化ホール

●日向市内

勉強堂

●延岡市内

夕刊デイリー新聞社

出 品 数

110点

観覧者数

3,546人

関連事業

① カルコグラフィーに見る西洋美術の流れ ギャラリートーク

講師：中村 隆夫氏（本展監修者・多摩美術大学教授）

日時：8月26日（日）午前11時～12時

場所：企画展示室・回廊

② カルコグラフィーに見る西洋美術の流れ 講演会

講師：中村 隆夫氏（本展監修者・多摩美術大学教授）

日時：8月26日（日）午後3時～4時

場所：多目的ホール

ルーヴル美術館の銅版画展

2018.7.21(土) - 9.2(日)

主催 | 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町・UMKテレビ宮崎

後援 | RMN-GP(フランス国立美術館連合-グランパレ)・ルーヴル美術館カルコグラフィー室・amf(アジャンス・デ・ミュゼ・フランス)

※ キャプション上部に記載されている番号は図録番号・作品番号です(展示順とは異なります)

展示順	作品名	原作者	作品サイズ (cm)
1	ルーヴル旧館正面の眺め	ジャック・リゴー	241 × 482
2	アンジヴィエ邸の庭から眺めたルーヴル宮の柱廊 『パリとその建造物』「ルーヴル宮」図版2	ルイ＝ピエール・バルタール	413 × 541
3	ルーヴル宮殿正面玄関のペディメントのための2つの巨大な 石を持ち上げるのに使用された機械の図	セバスティアン・ル・クレール	379 × 631
4	アルム広場の風景	イスラエル・シルヴェストル	379 × 508
5	ヴェルサイユの大階段の内観	ジョゼフ＝マリー・シュヴォテ	407 × 645
6	吊り下げられた猫とねずみたち『ヴェルサイユの迷宮』図版7	セバスティアン・ル・クレール	150 × 94
7	狐と鶴『ヴェルサイユの迷宮』図版15	セバスティアン・ル・クレール	150 × 92
8	猿と猫『ヴェルサイユの迷宮』図版29	セバスティアン・ル・クレール	150 × 93
9	大公と鳥たち『ヴェルサイユの迷宮』図版3	セバスティアン・ル・クレール	150 × 95
10	迷宮の地図『ヴェルサイユの迷宮』図版1	セバスティアン・ル・クレール	158 × 98
11	雌アヒルとバーベット犬『ヴェルサイユの迷宮』図版41	セバスティアン・ル・クレール	150 × 95
12	狼と頭『ヴェルサイユの迷宮』図版39	セバスティアン・ル・クレール	150 × 92
13	複数の頭をもつ蛇『ヴェルサイユの迷宮』図版33	セバスティアン・ル・クレール	149 × 101
14	岩窟の聖母	レオナルド・ダ・ヴィンチ	547 × 365
15	イザベラ・デステの肖像	レオナルド・ダ・ヴィンチ	682 × 521
16	鉢を持つ聖母	コレッジョ	329 × 255
17	モナ・リザ	レオナルド・ダ・ヴィンチ	335 × 248
18	老人の頭部	レオナルド・ダ・ヴィンチ	298 × 220
19	三美神(「春」の部分)	サンドロ・ボッティチェリ	720 × 420
20	子供を抱えて坐る女の習作	ミケランジェロ・ブオナローティ	356 × 247
21	パリスの審判	ラファエロ・サンツィオ	203 × 285
22	ヴェールを被った聖母マリア	ラファエロ・サンツィオ	474 × 343
23	美しい女庭師	ラファエロ・サンツィオ	553 × 365
24	パルナッソス(軍神マルスとウェヌス)	アンドレア・マンテーニャ	457 × 548
25	ヴィーナス	ラファエロ・サンツィオ	290 × 226
26	竜を退治する聖ミカエル	ラファエロ・サンツィオ	429 × 253
27	田園の奏楽	ティツィアーノ・ヴェチェリオ	444 × 499
28	エラスムスの肖像	ハンス・ホルバイン	320 × 254
29	ユディット	アンドレア・マンテーニャ	386 × 290
30	奏楽の天使に囲まれた聖母子	ヴェロネーゼ	450 × 335
31	うさぎの聖母	ティツィアーノ・ヴェチェリオ	610 × 473
32	サテュロスに追われるニンフ	ヴェロネーゼ	370 × 319
33	小川に架かる木の橋	ヤン・ブリューゲル	226 × 153
34	東屋と柳のある風景	アルブレヒト・デューラー	194 × 260
35	アルカディアの牧人	ニコラ・プッサン	395 × 466
36	エウリディケの死	ニコラ・プッサン	578 × 759
37	豊かな田園風景	ニコラ・プッサン	572 × 760
38	豊かな田園風景	ニコラ・プッサン	573 × 764
39	ヘラクレスに弓の引き方を教えるケイロン	ニコラ・プッサン	296 × 290
40	自画像	ニコラ・プッサン	361 × 252
41	キリストと姦淫の女	ニコラ・プッサン	443 × 642
42	岩を打つモーセ	ニコラ・プッサン	544 × 790
43	鍛冶屋	ルイ・ル・ナン	507 × 396
44	男の肖像	アンソニー・ヴァン・ダイク	330 × 290
45	エレヌと二人の子供	ピーテル・パウル・ルーベンス	408 × 312
46	聖家族	ピーテル・パウル・ルーベンス	271 × 207
47	フランドルの村祭り	ピーテル・パウル・ルーベンス	459 × 720
48	聖母の結婚	ピーテル・パウル・ルーベンス	465 × 347
49	国王チャールズ1世の肖像	アンソニー・ヴァン・ダイク	726 × 547
50	キリストを礼拝するパドバの聖アントニウス	アンソニー・ヴァン・ダイク	434 × 325
51	コンサート	リオネロ・スパダ	408 × 428
52	聖ハドリアヌス市警備隊の士官たちの晚餐	フランス・ハルス	560 × 747
53	デカルトの肖像	フランス・ハルス	330 × 280
54	ジプシー女	フランス・ハルス	285 × 233

展示順	作品名	原作者	作品サイズ (cm)
55	家族の食事	ヤン・ステーン	358 × 290
56	ヨセフの息子たちを祝福するヤコブ	レンブラント・ハルメンス・ファン・レイン	270 × 296
57	自画像	レンブラント・ハルメンス・ファン・レイン	355 × 247
58	ベレー帽を被った自画像	レンブラント・ハルメンス・ファン・レイン	520 × 390
59	レースを編む女	ヨハネス・フェルメール	350 × 291
60	シテール島の巡礼	ジャン＝アントワーヌ・ヴァトー	540 × 700
61	ピエロ(ジル)	ジャン＝アントワーヌ・ヴァトー	534 × 403
62	水浴のスザンナ	ジャン＝バティスト・サンテール	520 × 388
63	雅な会話	ニコラ・ランクレ	424 × 282
64	割れた水瓶	ジャン＝バティスト・グルーズ	535 × 404
65	連作(四季－春)	ニコラ・ランクレ	303 × 403
66	連作(四季－夏)	ニコラ・ランクレ	304 × 406
67	連作(四季－秋)	ニコラ・ランクレ	307 × 406
68	連作(四季－冬)	ニコラ・ランクレ	308 × 407
69	横たわる裸婦	フランソワ・ブーシェ	130 × 220
70	絵画と彫刻の象徴を手にする二人のキューピッド	フランソワ・ブーシェ	158 × 183
71	胸に腕を押し当てた裸婦	作者不詳(フランソワ・ブーシェによる)	240 × 130
72	うつ伏せになって花瓶を持つ裸婦	フランソワ・ブーシェ	88 × 183
73	田園生活の魅力	フランソワ・ブーシェ	398 × 545
74	水浴の女たち	ジャン＝オノレ・フラゴナール	385 × 455
75	食前の祈り	ジャン＝バティスト・シメオン・シャルダン	525 × 423
76	買い物帰りの女中	ジャン＝バティスト・シメオン・シャルダン	510 × 402
77	独楽で遊ぶ子供	ジャン＝バティスト・シメオン・シャルダン	388 × 420
78	サビコの女たち	ジャック＝ルイ・ダヴィッド	670 × 805
79	アルコレ橋のポナパルト	アントワーヌ＝ジャン・グロ	492 × 343
80	オイディプスとスフィンクス	ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル	386 × 305
81	浴女	ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル	448 × 310
82	“ケレスの復讐”の習作	ピエール＝ポール・プリュドン	420 × 357
83	ダフニスとクロエ	フランソワ・ジェラル	538 × 588
84	ドゥエ近郊、サン・ル・ノーブル街道	カミーユ・コロー	458 × 568
85	出現	ギュスターヴ・モロー	482 × 335
86	オルフェウスの首を運ぶトラキアの娘	ギュスターヴ・モロー	450 × 305
87	バレエのレッスン	エドガー・ドガ	337 × 297
88	踊り子たち	マリー＝ローランサン	340 × 430
89	イタリアの女(1版)	アメデオ・モディリアーニ	497 × 306
90	イタリアの女(2版)	アメデオ・モディリアーニ	493 × 306
91	イタリアの女(1+2版)	アメデオ・モディリアーニ	497 × 308
92	イタリアの女(3版)	アメデオ・モディリアーニ	497 × 302
93	イタリアの女(1+2+3版)	アメデオ・モディリアーニ	500 × 310
94	イタリアの女(4版)	アメデオ・モディリアーニ	497 × 308
95	イタリアの女(完全版)	アメデオ・モディリアーニ	498 × 308
96	画家の肖像	藤田嗣治	452 × 348
97	女と猫	藤田嗣治	349 × 450
98	グラスに挿した野の花(秋)	長谷川潔	284 × 231
99	人魚	ラウル・デュフィ	345 × 510
100	旅する筆	ピエール・アレシンスキー	545 × 680
101	山の湖	ルイズ・ブルジョワ	455 × 606
102	抽象的コンポジション	セルジュ・ボリアコフ	267 × 197
103	ヤッファ	ゲオルグ・バゼリッツ	424 × 306
104	リーリオナルシスシュス・ヤポーニクス、ルティロー・フローレ(ヒガンバナ)	ニコラ・ロベール	404 × 298
105	セドゥム・セラートゥム、フローレ・アルパ、ムルティフォルム(ベンケイソウ科マンネングサ属)	アブラム・ボッス	405 × 297
106	マンドラゴラ	ニコラ・ロベール	412 × 301
107	メーロー・ウルガーリス(メロン)	ニコラ・ロベール	297 × 408
108	アストラガルス・アーフリカーヌス・ルテウス、オドーラトゥス(マメ科ゲンゲ属)	ニコラ・ロベール	415 × 301
109	ナルシスシュス・シュルウェストリス、ムルティプレクス(ヒガンバナ科スイセン属)	ニコラ・ロベール	409 × 298
110	フラクシネラ・オフィキナルム、ディクタムヌス・アルプス(ミカン科ディクタムヌス属)	アブラム・ボッス	404 × 297

※ 87「バレエのレッスン」は木口木版 88「踊り子たち」102「抽象的コンポジション」はリトグラフです

3. 企画展

(1) 第15回高鍋町美術展覧会（無審査展）

本展は、応募者に対し広く作品発表の場と鑑賞の機会を提供し、地域の美術文化水準の向上を図ることを目的として毎年開催している。

出品テーマを問わない「自由部門」とテーマを定めた「テーマ部門」があり、テーマ部門への出品数の増加が見られた。また、出品作品のなかから気に入った作品に対して観覧者から投票していただいた投票用紙をもとに、各部門の最多得票者への賞状の贈呈と、観覧者からの声（用紙）のお届けを今回も継続し、好評を博した。

会 期

平成30年4月21日（土）～5月13日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観 覧 料

無料

会 場

高鍋町美術館

主 催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

応募資格

西都・児湯地区在住者並びに同地区の事業所・学校に通勤・通学している高校生以上の者。※同地区以外の者でも、同地区の絵画・写真・書道教室の生徒は可。

応募部門

① 自由部門 ②テーマ部門（テーマ：小丸川）

応募種目

絵画 写真 書

出品規定

種目	規 定
絵画	◆ 油彩画・アクリル画・水彩画・日本画・版画とし 8 号～20 号以内。 ◆ 乾燥したもので平面作品に限る（レリーフ的作品は可。但し、厚みは 10 cm 以内）。 ◆ 額装または表装したもの。ガラス有り可。 ◆ 上下の判断が付き難い作品については、裏面に明示のこと。
写真	◆ 単写真のみ、65 cm×85 cm 以内のパネル張りか額装（アクリルのみ）。 ◆ デジタル写真は可。
書	◆ 半懐紙（36 cm×25 cm）以上で半折（136 cm×35 cm）までとする。但し横書きについては 1/2 半折（70 cm）以内。 ◆ 枠張り額（止め金付き・ひも無し）又は軸装とし、展示に耐えうる丈夫なものとする。 ◆ 篆刻は印影のみとし、額装すること。 ※必ず釈文を提出すること

※上記各種目で使用した素材の著作権・肖像権については、出品者の責任において了承が得られたものとする。

出 品 料

無料

応募条件

各部門とも、本人が制作・撮影した作品に限る。

他の公募展等において入選した作品でも出品可とする。

出 品 数

5 6 点

観覧者数

5 7 3 人

最多得票者

[テーマ部門] 「早暁の小丸川」 松岡 洋

[自由部門] 「桜まつり（舞鶴公園）」 井上 俊一

第15回高鍋町美術展覧会（無審査展） 出品リスト

会期 | 2018. 4. 21（土） - 5. 13（日）

主催 | 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

高鍋町美術館
TAKANABE MUSEUM OF ART

テーマ部門

作品番号	氏 名	タイトル	備考
44	黒木 カツヨ	春の小丸川	油彩
12	坂脇 正子	小丸川河口を走る	写真
35	小森 勢津子	小丸川の水面	油彩
10	坂脇 昭吉	小丸川上流溪谷	写真
34	井上 俊一	風薫る小丸川	油彩
20	堀内 景子	小丸川	調和体
46	田中 史穂	早春	油彩
16	三好 啓司	穏やかな日	写真
39	森 雅裕	実篤の愛した郷	油彩
18	田中 隆吉	五月の小丸川	油彩
27	三嶋 英俊	春の川面	水彩
11	坂脇 正子	潜水橋を走る	写真
6	木本 さよ子	小丸川賛歌	油彩
23	政木 真美	小丸川	調和体
48	松岡 洋	早暁の小丸川	油彩
56	富山 恵	小丸川河口	写真
1	柴田 洋子	あざみの咲く頃	油彩
9	坂脇 昭吉	高城跡より 小丸川を望む	写真

自由部門

■ 写真

作品番号	氏 名	タイトル	備考
51	宮崎 金男	夕焼け	写真
17	三好 啓司	朝日差す	写真
55	富山 恵	泥にまみれて	写真
50	宮崎 金男	出迎え	写真
31	増田 豊水	夕照	写真
2	原 朋輝	よめじょがしごつ	写真

※ 作品情報は順路にあわせて掲載しています。

※ 作品番号は搬入時に受付したときの通し番号となります。

■ 絵 画

作品番号	氏 名	タイトル	備考
47	前田 昌樹	花子は元気です	アクリル
5	木本 さよ子	潮騒	油彩
36	小森 勢津子	東北〜赤べこの唄	油彩
52	堀田 みずほ	愛犬	アクリル
54	嶋原 信子	水仙	水彩
37	桐山 ナヲ	日の出	油彩
19	田中 隆吉	秋色黒門（甘木）	油彩
14	永友 文代	瓦屋根の家	水彩
28	三嶋 英俊	美々津の海	水彩
7	福島 正吉	西都原の春 高取山	油彩
40	税田 啓一郎	川南・漁船	油彩
33	井上 俊一	桜まつり（舞鶴公園）	油彩
38	桐山 ナヲ	西都原の みつばつつじ	油彩
43	川澤 稔子	漁具	水彩
45	黒木 カツヨ	雨上がり（平戸）	油彩
24	長友 晴久	駅伝きょう走	鉛筆
25	長友 晴久	長きより	鉛筆
8	福島 正吉	一ツ瀬川 杉安橋	油彩
4	東山 祐啓	子牛誕生	油彩
49	黒澤 三喜子	緑陰	油彩
53	長友 美咲	煙	アクリル

■ 書

作品番号	氏 名	タイトル	備考
29	古川 晶子	強い自分になるために	調和体
42	緒方 美津子	心月輪	漢字
15	黒木 淳子	渾身	調和体
21	堀内 景子	楽	漢字
3	松田 新風	紀 友則のうた	かな
32	荒木 崇之	臨曹金碑	漢字
13	松田 幸敏	大器晩成	漢字
30	古川 晶子	石鼓文第三鼓	漢字
22	政木 真美	ほっぺの中ハ宮崎牛	調和体
26	野崎 成文	富士山	かな
41	脇田 宜子	寶	漢字

(2) 宮崎アーティストファイル シンプル展

「宮崎アーティストファイル」シリーズは、毎回設定されるテーマにのっとり当館が県内在住アーティストの選出・作品の集荷・展示をおこなう。そこから見えるアーティストの「現代性」に着目した企画である。

第4回目となる本展では、「シンプル」をテーマに、所属団体や平面・立体にかかわらず、油絵・アクリル画・陶芸などの作品を展示した。また、ゲストアーティストとして九州在住で全国的に活躍するアーティストを招へいた。鑑賞者にとって地元アーティストの魅力を知り応援する機会となり、アーティスト自身にとっても今後の制作の刺激となることを目的としている。

会 期

平成30年6月2日（土）～7月1日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観 覧 料

大人300円（240円）、小中高生・高齢者・障がい者 150円（120円）

※（ ）内は20名以上の団体料金。未就学児は無料。

※高齢者料金は70歳以上。

※障がい者は障がい者手帳所持者とその介護者1名まで。

会 場

高鍋町美術館

主 催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

後 援

宮崎日日新聞社・MR T宮崎放送・UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎

出展作家（敬称略）

ゲストアーティスト [平面]国本泰英（大分県）

県内作家

[平面]小田瀧秀樹（綾町）中原憂也（川南町）

村田晴子（宮崎市）

[陶芸]篠村利治（日南市）吉本有希（宮崎市）

※五十音順、（ ）内は在住地。

出 品 数

24点

観覧者数

694人



宮崎アーティストファイル シンプル展

2018.6.2(土) - 7.1(日)

主催 | 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

後援 | 宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送・UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎

展示順	作品名	作家名	制作年	素材	サイズ(cm)
1	車 (20点)	篠村 利治	1979~2018年	陶土・釉薬	h13.0×w25.0×d14.0 他
2	無題 (4点)	吉本 有希	2017年	陶土・釉薬	h40.8×w8.5×d8.5 他
3	無題	吉本 有希	2018年	陶土・釉薬	h12.7×w34.3×d34.3
4	無題	吉本 有希	2018年	陶土・釉薬	h34.0×w34.0×d2.5
5	無題	吉本 有希	2018年	陶土・釉薬	h26.7×w25.7×d3.8
6	遠いつぶやき	小田瀧 秀樹	2016年	アクリル	60.3×46.3
7	金星から来ました	小田瀧 秀樹	2016年	アクリル	73.0×60.8
8	海から来た女	小田瀧 秀樹	2016年	アクリル	162×130.3
9	叫ぶ男	小田瀧 秀樹	2018年	アクリル	45.5×53.5
10	菩提樹の猿	小田瀧 秀樹	2017年	アクリル	53.5×45.5
11	shaka & monkey	小田瀧 秀樹	2018年	アクリル	42.3×32.8
12	Little Icarus	小田瀧 秀樹	2018年	アクリル	30.0×22.0
13	irogami	村田 晴子	2016年	アクリル	F15号
14	workshop '16-2	村田 晴子	2016年	アクリル	F50号
15	workshop '16-1	村田 晴子	2016年	アクリル	S100号
16	workshop	村田 晴子	2017年	アクリル	S100号
17	untitled	国本 泰英	2008年	アクリル	22.7×15.8
18	Scene #3	国本 泰英	2014年	アクリル	139.0×260.0
19	Scene Oval	国本 泰英	2016年	アクリル	220.0×600.0
20	Sight (4点)	国本 泰英	2018年	アクリル	27.5×65.5
21	なんだかドロツとしたもの	中原 憂也	2013年	油彩	51.5×36.5
22	ぬりかべ	中原 憂也	2015年	アクリル	77.0×111.0
23	鳳凰	中原 憂也	2017年	アクリル 合成樹脂塗料	168.5×83.2
24	弁財天	中原 憂也	2018年	アクリル	158.0×113.0

(3) 96歳の現代美術家・齋藤秀三郎 「文明キャベツ」

宮崎県西都市出身で福岡市在住の現代美術家・齋藤秀三郎。大学時代に水産資源学を学び、「自然は無尽蔵ではない」という概念に至り、その後の制作に大きな影響を与えている。

1957年より「九州派」に所属。その後「グループ西日本」に所属するなど、九州の現代美術史を生で見つめ続けてきた一人である。本展では、齋藤の代表作といえるメゾチント作品「キャベツ」シリーズから、石膏のキャベツを主とするインスタレーション「文明キャベツ」シリーズ、都城市での小学校時代に見た灯籠をモチーフとした立体作品「無常」シリーズまで、現代美術の表現を縦横無尽に駆け回る齋藤ならではの作品を展示した。

会 期

平成30年10月27日（土）～11月25日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観 覧 料

大人300円（240円）、小中高生・高齢者・障がい者 150円（120円）

※（ ）内は20名以上の団体料金。未就学児は無料。

※高齢者料金は70歳以上。※障がい者は障がい者手帳所持者とその介護者1名まで。

会 場

高鍋町美術館

主 催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

後 援

宮崎日日新聞社・MR T宮崎放送・UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎

出 品 数

31点

観覧者数

1,010人

関連事業

ギャラリートーク

講師：齋藤 秀三郎氏（作家本人）

日時：10月27日（土）午後2時～3時

場所：企画展示室・回廊

備 考

映像コーナー「美の鼓動・九州『現代美術家 齋藤秀三郎』」 テレビ西日本

96歳の現代美術家・齋藤秀三郎

文明キャベツ

2018.10.27(土) - 11.25(日)

主催 | 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町 後援 | 宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送・UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎

展示順	作品名		制作年	技法・素材	サイズ(cm)
1	キャベツ0508		2005年	銅版画	47 × 47
2	キャベツ9102 (インポテンス)		1991年	銅版画	54.4 × 70.3
3	キャベツ9002 (ハート)		1990年	銅版画	65.2 × 75.4
4	キャベツ9202		1992年	銅版画	80.4 × 78.6
5	キャベツ0503		2005年	銅版画	42.8 × 55
6	キャベツ8703 (処女)		1987年	銅版画	50.5 × 60.4
7	キャベツ0505		2005年	銅版画	47.4 × 53.3
8	キャベツ0502		2005年	銅版画	45.5 × 55.5
9	キャベツ1702		2017年	アクリル画	78.2 × 75.3
10	キャベツ1703		2017年	アクリル画	78.2 × 85.3
11	キャベツ1701		2017年	アクリル画	78.2 × 101.2
12	キャベツ1706		2017年	アクリル画	78.2 × 121.5
13	キャベツ1705		2017年	アクリル画	78.2 × 106
14	キャベツ0501		2005年	銅版画	37.8 × 39.8
15	キャベツ8802 (すばらしい能力)		1988年	銅版画	65.3 × 75.4
16	キャベツ9013 (攻撃性)		1990年	銅版画	65.3 × 75.4

展示順	作品名		制作年	技法・素材	サイズ(cm)
17	キャベツ9201 (つるされたもの)		1992年	銅版画	100.8 × 79.7
18	キャベツ9101 (インポテンス)		1991年	銅版画	65.3 × 75.3
19	キャベツ8902 (スピリット)		1989年	銅版画	65.3 × 75.4
20	キャベツ0509		2005年	銅版画	35.9 × 40.8
21	キャベツ0504		2005年	銅版画	48.9 × 38.8
22	キャベツ8801 (すばらしい未来)		1988年	銅版画	65.3 × 80.4
23	キャベツ9003 (風景)		1990年	銅版画	65.3 × 80.8
24	キャベツ9001 (風景)		1990年	銅版画	73.9 × 85.4
25	曝されたもの	5点	2008年	石膏・木材・アクリル絵具	h91 × w76.9 × d110.8
26	キャベツの行進—どこへ	39点	2008年	石膏・木材・アクリル絵具	h103 × w42 × d42 h180 × w120 × d120.5
27	500km/h	3点	2008年	アクリル画	92.1 × 183.4
28	Mach	3点	2008年	アクリル画	92.1 × 183.4
29	魂(クラスメート)	15点	2012年	木材・紙・アクリル絵具	h60.5 × w45.3 × d20.6 h101.9 × w203.9 × d31
30	魂(花と虫)	3点	2012年	木材・紙・アクリル絵具	h41.8 × w29.7 × d19.9
31	魂(家族)	7点	2012年	木材・紙・アクリル絵具	h60.6 × w44.7 × d19.8 h101.9 × w203.9 × d31

—	メゾチントの道具		—	ロッカー・バニッシャー兼スクレーパー・銅板	—
—	美の鼓動・九州 「現代美術家 齋藤秀三郎」		2015年放送	テレビ西日本制作	—

(4) 第20回西都・児湯の子どもたちによる絵画展

本展は開館以来、毎年開催されている企画展である。西都・児湯郡内の小学校・中学校の全校から、各学校にて選出した作品を出品していただいている。さらに3名の審査員に依頼し、出品作品から優秀な作品を選出し、受賞者には表彰式にて表彰状の授与を行った。各学校での美術活動は常時行われているが、それを一堂に展示する機会はなく、西都・児湯郡内に唯一存在する町立の美術館としての重要な役割を果たしている。

会 期

平成30年12月9日（日）～平成30年12月24日（月・祝）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観 覧 料

無料

会 場

高鍋町美術館

主 催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

後 援

西都市・新富町・西米良村・木城町・川南町・都農町・西都市教育委員会・新富町教育委員会・西米良村教育委員会・木城町教育委員会・川南町教育委員会・都農町教育委員会

出 品 数

433点

観覧者数

751人

審査員

前田 昌樹氏（画家）

田中 隆吉氏（画家）

萱嶋 稔（当館元館長）



表彰式の様子

「第20回西都・児湯の子どもたちによる絵画展」出品リスト(小学校)

No.	自治体	学 校 名	作 品 名	賞
1	西都市	妻北小学校	かいを見つけたよ	銀
2	西都市	妻北小学校	木とむし	
3	西都市	妻北小学校	はながさいたよ	
4	西都市	妻北小学校	火をふくきょうりゅう	
5	西都市	妻北小学校	なんにでもレナール	
6	西都市	妻北小学校	うちゅうにとんでいけ	
7	西都市	妻北小学校	花と葉っぱの町	
8	西都市	妻北小学校	葉っぱの世界	銅
9	西都市	妻北小学校	花のおしゃべり	
10	西都市	妻北小学校	なかよしドラゴン	
11	西都市	妻北小学校	きれいな野原を走るトラ	
12	西都市	妻北小学校	海の中で魚と遊ぶ	
13	西都市	妻北小学校	二人で協力したあんパン	
14	西都市	妻北小学校	交通ひょうしきで迷子	
15	西都市	妻北小学校	マシュウをまつアン	
16	西都市	妻北小学校	秋の都萬神社	
17	西都市	妻北小学校	秋の都萬神社	銅
18	西都市	妻北小学校	紅葉にかこまれる神社	
19	西都市	妻北小学校	秋の都萬神社	金
20	西都市	妻北小学校	私達の学校	
21	西都市	妻北小学校	学校のくつばこ	金
22	西都市	妻北小学校	やさしそうなキリン	
23	西都市	妻北小学校	ぞうさんにのりたい	
24	西都市	妻南小学校	勇気をもらいたくましく成長したラチ	
25	西都市	妻南小学校	たのしいすなあそび	
26	西都市	妻南小学校	ライオンを見たよ	
27	西都市	妻南小学校	なんにでもレナール	
28	西都市	妻南小学校	大切な友だち	銅
29	西都市	妻南小学校	「サイモンはねこである」を読んで	
30	西都市	妻南小学校	水仙の花	
31	西都市	妻南小学校	小さな木	
32	西都市	妻南小学校	サメがボートを食べそうだ！	
33	西都市	妻南小学校	カラフルちょう	
34	西都市	妻南小学校	深海にすむオウムガイ	
35	西都市	妻南小学校	オウムガイ	
36	西都市	妻南小学校	カブト虫をつかまえたぞ	銀
37	西都市	妻南小学校	ちいさなまじょ	
38	西都市	妻南小学校	こわれた千の楽器	
39	西都市	妻南小学校	月にかえる羊たち	
40	西都市	妻南小学校	いわたくんのおばちゃん	
41	西都市	妻南小学校	ここがエメラルドの都	
42	西都市	妻南小学校	神隠しの教室	銀

No.	自治体	学 校 名	作 品 名	賞
43	西都市	妻南小学校	笑う大仏	
44	西都市	妻南小学校	わたしの仏像	
45	西都市	妻南小学校	勇ましい仏像	
46	西都市	穂北小学校	おはなしのえ	
47	西都市	穂北小学校	ホカリさんのゆうびんはいたつ	
48	西都市	穂北小学校	だいぶつさまのうんどうかい	
49	西都市	穂北小学校	プーさん にげて！	
50	西都市	穂北小学校	平和な犬	
51	西都市	穂北小学校	カラフル！！ にわとり	
52	西都市	都於郡小学校	アイドルになったよ	
53	西都市	都於郡小学校	せかいが生まれたよ	
54	西都市	都於郡小学校	小さな木と動物たち	
55	西都市	都於郡小学校	行くぞ！運動会へ	
56	西都市	都於郡小学校	雷神	
57	西都市	都於郡小学校	思い出の図書館	
58	西都市	都於郡小学校 山田分校	ぞうくにぴったりなおうち	
59	西都市	茶臼原小学校	サイモンとなかまたち	
60	西都市	茶臼原小学校	みんなでなかよし	銅
61	西都市	茶臼原小学校	打つぞ！	
62	西都市	茶臼原小学校	喜ぶリスと光る菜種	
63	西都市	茶臼原小学校	思い出のあじさい	
64	西都市	三納小中学校(小)	読書感想画「大きなかぶ」	
65	西都市	三納小中学校(小)	「花さき山」を読んで	
66	西都市	三納小中学校(小)	ひみつの森のひみつの場所	
67	西都市	三納小中学校(小)	運動会ダンス	
68	西都市	三納小中学校(小)	川でドキドキワクワク	
69	西都市	三納小中学校(小)	ルドルフとイッパイアッテナを読んで	
70	西都市	三財小学校	王女様のティータイム	
71	西都市	三財小学校	木の間を飛ぶ ミミズク	
72	西都市	三財小学校	うわぁ！さかながいっぱい！	
73	高鍋町	高鍋東小学校	こうえん	
74	高鍋町	高鍋東小学校	としょかんせんがやってきた	
75	高鍋町	高鍋東小学校	としょかんせんかんせい	
76	高鍋町	高鍋東小学校	おにさんといっしょ	金
77	高鍋町	高鍋東小学校	カラフルなカニはっけん	
78	高鍋町	高鍋東小学校	やどかり大集合	
79	高鍋町	高鍋東小学校	スイミーのおともだちがさんごおよいでいるよ	銀
80	高鍋町	高鍋東小学校	ちょうちんあんこうのむれ	
81	高鍋町	高鍋東小学校	かぐやひめを読んで	
82	高鍋町	高鍋東小学校	にじいろの魚と大クジラ	銀
83	高鍋町	高鍋東小学校	ぬまのぬしをたおすぞ！	
84	高鍋町	高鍋東小学校	魚がかくれている びっくり！！	
85	高鍋町	高鍋東小学校	もっかい！	
86	高鍋町	高鍋東小学校	ちょんまげ とんだ	

No.	自治体	学 校 名	作 品 名	賞
87	高鍋町	高鍋東小学校	たのしい海のなかまたち	金
88	高鍋町	高鍋東小学校	楽しい木	
89	高鍋町	高鍋東小学校	山おとこの手ぶくろを読んで	
90	高鍋町	高鍋東小学校	山おとこの手ぶくろを読んで	
91	高鍋町	高鍋東小学校	トラをたおすキルリヨン	
92	高鍋町	高鍋東小学校	大とらに立ち向かう	銅
93	高鍋町	高鍋東小学校	ひとりぼっちの子ゾウ	
94	高鍋町	高鍋東小学校	コクチョウとコイの対決	
95	高鍋町	高鍋東小学校	つるを追って	
96	高鍋町	高鍋東小学校	悲しい記おく	
97	高鍋町	高鍋東小学校	アラジンと不思議なランプ	
98	高鍋町	高鍋東小学校	ランプからまじん	
99	高鍋町	高鍋東小学校	お呼びでしょうか	
100	高鍋町	高鍋東小学校	とっても幸せ	
101	高鍋町	高鍋東小学校	名前でアート～ぼくの名前がかかれています～	
102	高鍋町	高鍋東小学校	名前でアート～わたしの名前がかかれています～	
103	高鍋町	高鍋東小学校	ネームスプレー	
104	高鍋町	高鍋東小学校	ネームアート	
105	高鍋町	高鍋東小学校	私の思い出	
106	高鍋町	高鍋東小学校	カラフルネーム	
107	高鍋町	高鍋西小学校	コロコロ ペッタン	
108	高鍋町	高鍋西小学校	くだもののあわ	
109	高鍋町	高鍋西小学校	線路は続く	
110	高鍋町	高鍋西小学校	トラとサイモンが話しているところ	
111	高鍋町	高鍋西小学校	おむすびころりんを読んで	
112	高鍋町	高鍋西小学校	しましま犬くんが生まれたよ	
113	高鍋町	高鍋西小学校	かもとりごんべえ	
114	高鍋町	高鍋西小学校	だいすき	
115	高鍋町	高鍋西小学校	めっきらもっきらの仲間たち	
116	高鍋町	高鍋西小学校	花から花	
117	高鍋町	高鍋西小学校	いろいろなもようの花	
118	高鍋町	高鍋西小学校	かがやく花	
119	高鍋町	高鍋西小学校	青空をおよぐりゅう	
120	高鍋町	高鍋西小学校	雨あがりの庭	銅
121	高鍋町	高鍋西小学校	散歩とちゅうの大きなあじさい	
122	高鍋町	高鍋西小学校	銀河をかける鉄道	
123	高鍋町	高鍋西小学校	友達との旅	
124	高鍋町	高鍋西小学校	ふしぎ駄菓子屋 銭天堂	
125	高鍋町	高鍋西小学校	きつと君に届くと信じて	
126	高鍋町	高鍋西小学校	がんばってつくった妖精の国	
127	高鍋町	高鍋西小学校	伊達正宗	
128	新富町	富田小学校	ありとすいか	銀
129	新富町	富田小学校	サイモンはねこである	
130	新富町	富田小学校	レナールと絵	

No.	自治体	学 校 名	作 品 名	賞
131	新富町	富田小学校	なんにでもレナール	
132	新富町	富田小学校	魚のぼうけん海	
133	新富町	富田小学校	ちきゅうのたまご	
134	新富町	富田小学校	きれいな海のたまご	
135	新富町	富田小学校	海のたまご	
136	新富町	富田小学校	夜の鳥たち	銀
137	新富町	富田小学校	サーカスのライオン	
138	新富町	富田小学校	サーカスのライオン	
139	新富町	富田小学校	カラフルデザイン	銅
140	新富町	富田小学校	りすのきょうだいとふしぎなたね	
141	新富町	富田小学校	星を食べる魚クーク	
142	新富町	富田小学校	おたん生日	
143	新富町	富田小学校	大仏様のピラミッド	
144	新富町	富田小学校	大丈夫、大仏様	
145	新富町	富田小学校	たすけてえ	
146	新富町	富田小学校	だれか 助けて！	
147	新富町	富田小学校	星になった竜のキバ	
148	新富町	富田小学校	これまでずっとありがとう	
149	新富町	富田小学校	一輪の花	
150	新富町	富田小学校	店のうらにいるクモ	
151	新富町	富田小学校	大わしが飛び立つ	
152	新富町	富田小学校	柴犬	銀
153	新富町	富田小学校	鳥のおしゃべり	
154	新富町	富田小学校	かえるの遊び場	
155	新富町	富田小学校	森を大切に	
156	新富町	富田小学校	みんな人それぞれ	
157	新富町	富田小学校	人の心を支えてあげよう	
158	新富町	富田小学校	みんな見ているぞ	銅
159	新富町	新田小学校	わたしのロケット ゴーゴー	
160	新富町	新田小学校	さめにのったよ	
161	新富町	新田小学校	たすけて	
162	新富町	新田小学校	しずかなうみ	
163	新富町	新田小学校	スーパートルネード	
164	新富町	新田小学校	みんなの花	
165	新富町	新田小学校	進め 銀河鉄道	
166	新富町	新田小学校	緑の銀河	
167	新富町	新田小学校	ろうか	
168	新富町	新田小学校	くつばこ	
169	新富町	上新田小学校	さかなとなかよし	
170	新富町	上新田小学校	ひこうき かっこいいな	
171	新富町	上新田小学校	先生とりゅう	
172	新富町	上新田小学校	カラフルな花	
173	新富町	上新田小学校	あばれる赤竜	
174	新富町	上新田小学校	山文字 かみなり	銀

No.	自治体	学 校 名	作 品 名	賞
175	都農町	都農小学校	まほうでぞうがしょうぼうし	
176	都農町	都農小学校	たのしいうみの中	
177	都農町	都農小学校	サイモンはねこである	
178	都農町	都農小学校	オサリン ぶくぶく	
179	都農町	都農小学校	しんじてくれて ありがとう	
180	都農町	都農小学校	だくちるとなくきょうりゅうとティラノサウルス	
181	都農町	都農小学校	りすのきょうだい	
182	都農町	都農小学校	都農神社	
183	都農町	都農小学校	注文の多い料理店	
184	都農町	都農小学校	注文の多い料理店	
185	都農町	都農小学校	わたしのお気に入り場所	
186	都農町	都農小学校	思い出の風景	
187	都農町	都農小学校	おすず2から見える風景	
188	都農町	都農南小学校	つののぶどうとワイン	
189	都農町	都農南小学校	つののぶどうとすきなむし	
190	都農町	都農南小学校	サイモンはねこである	
191	都農町	都農南小学校	「サイモンはねこである」を読んで	
192	都農町	都農南小学校	大仏様も のりのりダンス	銅
193	都農町	都農南小学校	モチモチの木	
194	都農町	都農南小学校	いただきまーす	
195	都農町	都農南小学校	わぁ！ おいしそう	
196	都農町	都農南小学校	都農神社	
197	都農町	都農南小学校	都農神社	
198	都農町	都農南小学校	自然豊かな学校	
199	都農町	都農南小学校	道をてらす花みずき	
200	都農町	都農東小学校	守るぞ！！ 賢者の石	
201	都農町	都農東小学校	がんばれ！！ 赤団！！	
202	都農町	都農東小学校	なんにでもレナール	銅
203	都農町	都農東小学校	都農町の守り神	銀
204	都農町	都農東小学校	うさぎと なかよし	
205	都農町	都農東小学校	小さい部屋に入って体が小さくなった	
206	都農町	都農東小 内野々分校	牛のおせわ	
207	都農町	都農東小 内野々分校	ピンクのドラゴンをさがしています	
208	川南町	川南小学校	やさしい フラミンゴ	
209	川南町	川南小学校	ヘラクレスオオカブト	
210	川南町	川南小学校	さかなのこうしん	銅
211	川南町	川南小学校	はをみがくぞお！	金
212	川南町	川南小学校	みんなであそぼう	
213	川南町	川南小学校	鳥が 生まれた	
214	川南町	川南小学校	うろこ みつけた	
215	川南町	川南小学校	にじいろの魚となかよし	銀
216	川南町	川南小学校	山の図書館	
217	川南町	川南小学校	読み聞かせ始めるよ	
218	川南町	川南小学校	動物さん いらっしゃい	

No.	自治体	学 校 名	作 品 名	賞
219	川南町	川南小学校	楽しいパーティーだ	
220	川南町	川南小学校	夜の声ぼたる	
221	川南町	川南小学校	たくさん光る声ぼたる	
222	川南町	川南小学校	ココアのゆげから	
223	川南町	川南小学校	ジキルとハイド	
224	川南町	川南小学校	3つの世界	
225	川南町	川南小学校	向日葵と2つの世界	
226	川南町	川南小学校	いきいき明るいアジサイ	
227	川南町	川南小学校	愛鳥週間	
228	川南町	川南小学校	みつめるわし	
229	川南町	通山小学校	なっている赤おに	
230	川南町	通山小学校	ゆめのばしゃ	
231	川南町	通山小学校	うみのそこ たんけん	
232	川南町	通山小学校	だいぶつさまの玉入れ	
233	川南町	通山小学校	月夜のねこのカーニバル	金
234	川南町	通山小学校	楽しい夜	銅
235	川南町	通山小学校	注文の多い料理店	
236	川南町	通山小学校	注文の多い料理店	
237	川南町	通山小学校	かがやく私の未来ヘレッツゴー	
238	川南町	通山小学校	銀河を走る夜汽車	
239	川南町	多賀小学校	1日うさぎ	銅
240	川南町	多賀小学校	うちゅうに行ったうさぎ	
241	川南町	多賀小学校	わたしのすきな場所	
242	川南町	多賀小学校	neko	
243	川南町	多賀小学校	ふり注ぐひかり	
244	川南町	多賀小学校	楽しいゼリー作り	
245	川南町	山本小学校	三びきの こぶた	
246	川南町	山本小学校	「いいから いいから」を読んで	
247	川南町	山本小学校	王様と9人の兄弟	
248	川南町	山本小学校	どこに行くの？	
249	川南町	山本小学校	リコーダーをふく、ぼく	
250	川南町	山本小学校	リコーダーをふく自分	銅
251	川南町	川南町立東小学校	まけるな！リレー	
252	川南町	川南町立東小学校	こんにちは キリンさん	
253	川南町	川南町立東小学校	たねを見つけたよ	
254	川南町	川南町立東小学校	大仏様のピラミッド	
255	川南町	川南町立東小学校	ハルと歩いた	
256	川南町	川南町立東小学校	なみだの夜	
257	木城町	木城小学校	よるにうごいたでんしんばしら	銅
258	木城町	木城小学校	「一日だけうさぎ」を読んで	
259	木城町	木城小学校	おつきょちゃんとかつぱたち	
260	木城町	木城小学校	レナールとワニ	
261	木城町	木城小学校	私の見たモチモチの木	
262	木城町	木城小学校	ドラゴンボールと仲間たち	

No.	自治体	学 校 名	作 品 名	賞
263	木城町	木城小学校	ことりのさがしもの	
264	木城町	木城小学校	「小さな小さな海」を読んで	
265	木城町	木城小学校	死の西洋料理店	
266	木城町	木城小学校	「もうおそい」	
267	木城町	木城小学校	せんだんの木	
268	木城町	木城小学校	「百羽のツル」を読んで	
269	西米良村	村所小学校	へんしんレナール にんじゃになる	
270	西米良村	村所小学校	ぼくは負けないぞ	
271	西米良村	村所小学校	ぼくたちに気づくかな？	
272	西米良村	村所小学校	大きくなった小さな木	
273	西米良村	村所小学校	村所橋	銅
274	西米良村	村所小学校	大きな神社	
275	西米良村	村所小学校	思い出の風景	銅
276	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	ぶどう	
277	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	ぶどう	
278	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	さつまいも	
279	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	おいも	
280	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	これはやさい	
281	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	いもほり	
282	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	さつまいも	
283	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	ぼくのかき	
284	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	ぼくのかき	
285	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	ぶどう	
286	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	おつきみ	銀
287	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	おつきみ	
288	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	おつきみ	
289	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	おつきみ	
290	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	とんぼのめがね	
291	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	はなび	
292	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	でんしゃとかたち	
293	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	おれんじ・あお・きいろ・あか	
294	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	すまいるとでんしゃ	
295	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	とんぼのめがね	
296	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	とんぼのめがね	
297	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	アフリカン サファリ	
298	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	アフリカン サファリ	
299	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	アフリカン サファリ	
300	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	アフリカン サファリ	銅
301	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	どんぐりころころ	
302	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	おちばあそび	銀
303	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	おちばとったよ～	

※ 個人情報保護のため、学年と作者名は明記しておりません。

「第20回西都・児湯の子どもたちによる絵画展」出品リスト(中学校)

No.	自治体	学 校 名	作 品 名	賞
1	西都市	妻中学校	静物	
2	西都市	妻中学校	ビンと果物	
3	西都市	妻中学校	シューズ	
4	西都市	妻中学校	静物	
5	西都市	妻中学校	くだもの	銀
6	西都市	妻中学校	自画像	
7	西都市	妻中学校	自画像	
8	西都市	妻中学校	金魚と夏みかん	
9	西都市	妻中学校	階段	金
10	西都市	妻中学校	鳥の楽園	
11	西都市	妻中学校	雨上がり	銀
12	西都市	妻中学校	異国の鳥	
13	西都市	妻中学校	植物を大切に	
14	西都市	妻中学校	四季を守ろう	金
15	西都市	穂北中学校	誕生	
16	西都市	穂北中学校	一点透視図法	
17	西都市	穂北中学校	絵文字	
18	西都市	穂北中学校	絵文字	
19	西都市	穂北中学校	一点透視図法	
20	西都市	都於郡中学校	大空に浮かぶ覇木	
21	西都市	都於郡中学校	絵文字	
22	西都市	三納中学校	絵文字	
23	西都市	三納中学校	共存できる世界	銅
24	西都市	三納中学校	花は美しい 色も美しい	
25	西都市	三納中学校	緑を増やそう	
26	西都市	三財中学校	春のあしおと♪	
27	西都市	三財中学校	一点透視図法	
28	西都市	三財中学校	絵文字	
29	西都市	銀鏡中学校	三原色で描くバラの花	
30	西都市	銀鏡中学校	開こう心の扉(人権)	
31	西都市	銀鏡中学校	読書感想画	
32	西都市	銀鏡中学校	読書感想画	
33	西都市	銀鏡中学校	アリスから見える風景	
34	西都市	銀鏡中学校	猫と花火	
35	高鍋町	高鍋東中学校	くまと山ねこ	
36	高鍋町	高鍋東中学校	100万回生きたネコ	銀
37	高鍋町	高鍋東中学校	モンスターのインク	
38	高鍋町	高鍋東中学校	おじいさんの口笛	
39	高鍋町	高鍋東中学校	人才オカミ	
40	高鍋町	高鍋東中学校	大天王さまの尾なし竜	
41	高鍋町	高鍋東中学校	奇巖城	
42	高鍋町	高鍋東中学校	星の王子様	

No.	自治体	学 校 名	作 品 名	賞
43	高鍋町	高鍋東中学校	No. 6	
44	高鍋町	高鍋東中学校	獵人荘の怪事件	
45	高鍋町	高鍋東中学校	恋する新選組	
46	高鍋町	高鍋東中学校	カバのはいしゃさん	
47	高鍋町	高鍋東中学校	ありがとうをいいたくて	
48	高鍋町	高鍋東中学校	最後だとわかっていたら	
49	高鍋町	高鍋東中学校	影を失った男	
50	高鍋町	高鍋東中学校	僕らのミステリー列車	
51	高鍋町	高鍋西中学校	いろいろなスケッチと文字のデザイン	
52	高鍋町	高鍋西中学校	いろいろなスケッチと文字のデザイン	
53	高鍋町	高鍋西中学校	いろいろなスケッチと文字のデザイン	銅
54	高鍋町	高鍋西中学校	着物の柄のデザイン	
55	高鍋町	高鍋西中学校	着物の柄のデザイン	銅
56	高鍋町	高鍋西中学校	想像の世界	
57	高鍋町	高鍋西中学校	想像の世界	
58	高鍋町	高鍋西中学校	想像の世界	
59	高鍋町	高鍋西中学校	着物の柄のデザイン	
60	高鍋町	高鍋西中学校	着物の柄のデザイン	
61	新富町	富田中学校	人権ポスター	
62	新富町	富田中学校	合唱曲(明日という日が)	
63	新富町	富田中学校	人権ポスター	
64	新富町	富田中学校	戦えメロス	
65	新富町	富田中学校	走れメロス	銀
66	新富町	富田中学校	走れメロス	
67	新富町	富田中学校	走れメロス	
68	新富町	富田中学校	心中[なか]と体内[なか]	銅
69	新富町	富田中学校	ばあちゃんがない心の中	
70	新富町	富田中学校	LEMON	
71	新富町	富田中学校	合唱曲(予感)	
72	新富町	富田中学校	人権ポスター	
73	新富町	上新田中学校	スタンドグラス	銅
74	新富町	上新田中学校	アリスの世界	
75	新富町	上新田中学校	俺	
76	都農町	都農中学校	扇面図	
77	都農町	都農中学校	扇面図	
78	都農町	都農中学校	扇面図	
79	都農町	都農中学校	扇面図	
80	都農町	都農中学校	扇面図	銅
81	都農町	都農中学校	扇面図	
82	都農町	都農中学校	扇面図	
83	都農町	都農中学校	扇面図	
84	都農町	都農中学校	自画像	銅
85	都農町	都農中学校	自画像	
86	川南町	国光原中学校	集中している友達	

No.	自治体	学 校 名	作 品 名	賞
87	川南町	国光原中学校	目の前の友達	金
88	川南町	国光原中学校	朝食の静物	
89	川南町	国光原中学校	希望の閃き	
90	川南町	国光原中学校	舞い上がる	
91	川南町	国光原中学校	ヤモリ	銀
92	川南町	国光原中学校	窓から見える風景	銀
93	川南町	国光原中学校	しろくろ階段	
94	川南町	国光原中学校	車庫	
95	川南町	唐瀬原中学校	読書感想画	
96	川南町	唐瀬原中学校	読書感想画	
97	川南町	唐瀬原中学校	読書感想画	
98	川南町	唐瀬原中学校	屏風	
99	川南町	唐瀬原中学校	屏風	
100	川南町	唐瀬原中学校	デッサン	
101	川南町	唐瀬原中学校	デッサン	
102	川南町	唐瀬原中学校	デッサン	
103	木城町	木城中学校	比木神社	
104	木城町	木城中学校	比木神社のご神木	
105	木城町	木城中学校	キンカンとマンゴーハウス	
106	木城町	木城中学校	木城町の風景	
107	木城町	木城中学校	城山からみた風景	
108	木城町	木城中学校	椎木坂から見た木城の風景	銅
109	木城町	木城中学校	祇園滝	
110	西米良村	西米良中学校	三原色を使って花をかく(赤 黄 青)	
111	西米良村	西米良中学校	3原色を使って花をかこう！	
112	西米良村	西米良中学校	三原色を使って花を描く	銅
113	西米良村	西米良中学校	勝負は一瞬！！	
114	西米良村	西米良中学校	どんなものにも命がある	
115	西米良村	西米良中学校	月見猫	
116	西米良村	西米良中学校	究極の選択	
117	西米良村	西米良中学校	裏側	
118	西米良村	西米良中学校	父のビール	
119	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	ぐるぐるぐる～	
120	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	たべられそうになっているヒヨコ	
121	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	くだものとドーナツ	
122	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	すずらんとうさぎ	
123	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	マダコ	
124	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	ケーキとコーヒー	
125	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	シャツシャツシャツ	
126	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	15才の私	
127	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	よーい どん！！	
128	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	ぐるぐるぽん！	
129	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	いちご	
130	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	タやけの車	銀

※ 個人情報保護のため、学年と作者名は明記してありません。

(5) 第18回高鍋高校美術・書道部展

本展は高鍋町内に存在する県立高鍋高校の美術・書道部員の作品を中心とした企画展である。作品の制作だけでなく、キャプションづくりや展示作業までを高校生自らが行っている。

アーティストにとって作品の制作だけでなく作品の発表や展覧会の開催もまた重要なものである。高校生という若い年齢時期から作品を発表することを通して豊かな経験をしてもらうことを目的としている。

高校生からは、自身の作品を美術館に展示できる喜びや、展示構成・展示作業の難しさを体験できた様子が見受けられた。

会 期

平成31年1月5日（土）～1月14日（月・祝）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで・最終日は午後3時まで）

休 館 日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観 覧 料

無料

会 場

高鍋町美術館

主 催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

協 力

高鍋高等学校

出 品 数

323点

観覧者数

506人



美術選択生作品紹介

氏名	作品	氏名	作品
3年 竹原 一誓	静物画 (キャンバス・油絵具)	1年 佐藤 千馬	自画像デッサン (画用紙・鉛筆)
岩村 柚希		椎木 孝成	
木村 真琴		高嶋 勇成	
堀江 彩夏		田代 彩人	
岩村 柚希 木村 真琴	アニメーション (映像)	宮越 大輔	
2年 出井 いろは	自画像イラストレーション (画用紙・アクリル)	大塚 菜生	
高木 佳奈		金田 愛生	
赤司 祐誠	水墨画 (色紙・墨)	草野 優美	
坂口 比菜		松元 紀光夏	
圖師 美優		塩谷 龍ノ介	
河野 睦		杉尾 太陽	
後藤 晴香	自画像イラストレーション (画用紙・アクリル)	是澤 琴羽	
		石川 耀士	
		永友 久玲愛	
		野別 萌百花	
		平木 彩夏	
		渡部 聖羅	

美術部員作品紹介

氏名	作品	備考
3年 堀江 彩夏	1095 日の宙	絵画 (F50 号) キャンバス・アクリル 第 40 回宮崎県高等学校総合文化祭 奨励賞
1年 大塚 菜生	思い出	立体 石粉粘土・スタイロフォーム
1年 金田 愛生	10 代の心模様	絵画 (F50 号) キャンバス・アクリル
1年 影石 敦己	受験前の思い出	絵画 (P30 号) パネル・ジェッソ・鉛筆
1年 杉尾 太陽	高みへ	絵画 (P40 号) パネル・和紙・水干絵具・岩絵具

※美術部員 (16 名) の内、5 名の作品を展示。

書道部員と作品紹介

部員名	作品名	部員名	作品名
3年			
渡邊 雄飛	王維詩	長友 花凜	李賀詩 王維詩 高文祭優秀賞 県美術展入選
梶本 穂乃香	李白詩 臨 王鐸 高文祭優秀賞	上野 真柚子	王維詩
秋鷹 蔵智	王維詩	坂本 愛	李賀詩
河野 摩子	白居易詩 臨 呉昌碩 高文祭優秀賞	入木 帆香	李賀詩 杜甫詩 県美術展入選
菊池 彩花	杜甫詩	間野 梓	李賀詩
2年		1年	
大森 雄太	杜甫詩 西都市美展準特選 高文祭奨励賞	松方 美羽音	臨 呉昌碩 孫秋生造像記 県席上揮毫大会 第三位
神崎 明里	杜甫詩	高戸 咲菜	臨 孫秋生造像記
岩井 春華	李白詩	永住 美月	臨 牛楓造像記
佐光 円香	王維詩 高文祭優秀賞	原澤 芽生	臨 顔真卿
黒木 琴乃	臨 王鐸	高田 楓菜	臨 顔真卿
杉尾 歩美	臨 曹全碑 高文祭優秀賞	工藤 桜時	臨 高貞碑
三好 麻央	杜甫詩 宮崎県美術展入選 高文祭優秀賞	橋本 美玖	臨 牛楓造像記
西森 那美	許幾詩	広島 佑香	臨 高貞碑
		宇治橋 心純	臨 蘭亭序
		佐藤 奎弥	臨 蘭亭序

○書道部

【合作】

- ・ 来年の抱負（亥） ・ 鍋書カルタ（1年）・【空に笑えば】WACCi（1年）
- ・ 自由創作（2年）
- ・ 書道パフォーマンス作品
- ・ 【明るい選挙コンクール出品作品】

○ 書道選択生 1年（古典臨書作品）

○ 書道選択生 2年（古典臨書作品）（篆刻）

○ 書道選択生 旧2年（好きな言葉）

○ 306（刻字）

(6) 高鍋町美術館実技講座生徒作品展

高鍋町美術館では、当館主催の「実技講座」と貸館事業による「自主実技講座」の2種類が開講されている。「実技講座」は初心者を対象としており、より多くの方に受講していただくために、原則として同一講座を続けて受講することができない。「自主実技講座」は、主に講座修了者が自主的に集まって実習室を使用し、制作活動を行っているものである。本展は、講座の1年間の制作活動の集大成として、当館主催にて発表の場を提供するものである。制作活動に興味をもつ一般の方に対して講座の活動を周知するとともに、受講者に対して制作活動の意欲向上を図る機会となっている。このように、地域の生涯学習の一環として、さまざまな役割と効果を担っている。

会 期

平成31年3月9日（土）～平成31年3月24日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで・最終日は午後3時まで）

休 館 日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観 覧 料

無料

会 場

高鍋町美術館

主 催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

出 品 数

139点

観覧者数

327人

参加講座

〔主催実技講座〕

- ・パステル画教室
- ・重ね切り絵教室
- ・カメラを使った表現講座
- ・デッサン教室

〔自主実技講座〕

- ・木版画講座バレン・タ・in 高鍋
- ・絵てがみ教室ぶ〜け
- ・重ね切り絵ぽっぽ
- ・パステル教室



Ⅲ 普及活動

1. 美術講演会

日 程	演 題	講 師	参加者数
平成30年8月26日	カルコグラフィーに見る西洋美術の流れ	中村 隆夫氏(特別展「ルーヴル美術館の銅版画展」監修者・多摩美術大学教授)	37
平成31年1月15日	高鍋学園1月講座 美術館の楽しみ方	青井 美保(当館学芸員)	73

2. 美術教室

(1) ワークショップ(申込型)

日 程	内 容	講 師	参加者数
平成30年5月12日	高鍋西小学校4年2組ワークショップ	青井 美保(当館学芸員)	60
平成30年6月16日	高鍋東小学校5年3組ワークショップ	青井 美保(当館学芸員)	55
平成30年8月7日	子ども教室 夏クラブ	青井 美保(当館学芸員)	59
平成30年9月15日	高鍋西小学校4年1組ワークショップ	青井 美保(当館学芸員)	34
平成30年10月13日	高鍋東小学校4年1組ワークショップ	青井 美保(当館学芸員)	80
平成30年11月3日	高鍋東小学校5年1組ワークショップ	青井 美保(当館学芸員)	39

(2) ワークショップ(募集型)

期 日	内 容	講 師	参加者数
平成30年5月3日	ロゼットづくり	青井 美保(当館学芸員)	20
平成31年3月10日	カラフルボトルをつくろう	青井 美保(当館学芸員)	23

3. ギャラリートーク

開催日数	展覧会名	講 師	合計参加者数
1日	ルーヴル美術館の銅版画展	中村 隆夫氏(特別展「ルーヴル美術館の銅版画展」監修者・多摩美術大学教授)	72
7日	ルーヴル美術館の銅版画展	青井 美保(当館学芸員)	127
1日	96歳の現代美術家・齋藤秀三郎 文明キャベツ	齋藤 秀三郎氏(作家本人)	45

4. インターンシップ

日程 平成30年11月16日

インターンシップ生(中学生) 3名(2校)

内容 各種講義・美術館の仕事について・来館者の対応体験 など

5. 社会見学

日程 平成30年5月25日

高鍋東小学校2年生 114名

内容 美術館の仕事について



中村隆夫氏ギャラリートークの様子



高鍋東小学校社会見学の様子

Ⅳ 施設利用

1. 展示室

(1) 常設展月別観覧者

月	開館日数	個人			団体			共通観覧券			免除	招待	合計	累計
		大人	小中高 生・高齢 者・障が い者	未就学児	大人	小中高 生・高齢 者・障が い者	未就学児	大人	小中高 生・高齢 者・障が い者	未就学児				
	日	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
4	23	34	7								6		47	
5	21	39	25					1	21		35		121	
6	25	261	82								160	124	627	
7	18	341	159								23	104	627	
8	27	1235	592								81	482	2390	
9	15	277	101								56	200	634	
10	22	93	37								44	29	203	
11	22	214	104		46	134					287	84	869	
12	17	8									6		14	
1	22	15	4										19	
2	24	25	15								12	1	53	
3	18	9	4								22		35	
計		2551	1130	0	46	134	0	1	21	0	732	1024	5639	
合計													0	

(2) 展覧会観覧者

展覧会名	会期	会場	日数	入場者数(個人)		入場者数(団体)	
				大人	小中高生・ 高齢者・障 がい者	大人	小中高生・ 高齢者・障 がい者
第17回高鍋高校OB美術展	4/1～4/8	企画展示室	7	14	4		
第15回高鍋町美術展覧会 (無審査展)	4/21～5/13	企画展示室	20	43	25		21
あいばスタジオ写真展	5/17～5/27	回廊	10	11	3		
宮崎アーティストファイル シンプル展	6/2～7/1	企画展示室	26	290	89		
井上俊一油彩画個展 ～晩秋を描く	6/2～7/1	エントランス	26				
ルーヴル美術館の銅版画展	7/21～9/2	企画展示室	38	1,803	833		
藩校 明倫堂	9/14～10/14	企画展示室	25	55	22		
児湯支部書展	10/2～10/8	回廊	7	13	4		
児湯支部書展	10/2～10/8	エントランス	7				
96歳の現代美術家・齋藤秀三 郎 文明キャベツ	10/27～11/25	企画展示室	26	276	127	46	134
景観コンクール	10/27～11/16	エントランス	18				
第20回西都・児湯の子どもたち による絵画展	12/9～12/24	企画展示室	14	7			
第18回高鍋高校美術・書道部 展	1/5～1/14	企画展示室	9	9	2		
第20回高鍋町美術協会展	1/17～1/27	企画展示室	10	6	2		
墨友誌観賞欄作品展	1/17～1/27	エントランス	10				
平成30年度読書感想画展	1/30～2/11	企画展示室	12	7	8		
寺原聖山 書の世界	2/26～3/3	企画展示室	6	4	3		
高鍋町美術館実技講座 生徒作品展	3/9～3/24	企画展示室	13	6	4		
計	—	—	284	2,544	1,126	46	155
合計							

無料	招待	合計						
無料・免除 (未就学児を含む)	招待	有料展			無料展			
		企画展	ギャラリー展	回廊	企画展	ギャラリー展	回廊	エントランス
203						221		
484					573			
179							193	
165	150	694						
136								136
124	786	3,546						
523						600		
260							277	
84								84
314	113	1,010						
213								213
744					751			
495					506			
650						658		
63								63
250						265		
504						511		
245					327			
5,636	1,049	5,250	—	—	2,157	2,255	470	496
								10,628

2. 多目的ホール・実習室

月	日	曜	使用箇所	時間帯	行 事 名	参加者
4	1	日	ホール	午前	石崎ピアノ発表会	40
	3	火	実習室	午後	バレン・タ・in	5
	4	水	実習室	午後	水墨画05教室	2
	7	土	ホール	午後	柴坂ピアノ発表会	30
	10	火	ホール・実習室	午後・夜間	高鍋西都地区食品衛生協会 高鍋分会総会	160
	12	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	4
	12	木	ホール・実習室	午後	平成30年度 高鍋高校探究科学コース対面式	135
	13	金	実習室	午前	水墨画教室	3
	14	土	実習室	午後	実技 重ね切り絵	9
	14	土	実習室	午後	実技 パステル	8
	15	日	ホール・実習室	午前・午後	子ども映画祭り	200
	17	火	ホール・実習室	午前	平成30年度高鍋町高齢者クラブ連合会総会	88
	21	土	実習室	午前	実技 デッサン	8
	21	土	実習室	午後	パステル画 自主講座	8
	24	火	実習室	午前	重ね切り絵 ぽっぽ	8
	26	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	6
	27	金	実習室	午前	絵手紙鶯草グループ	7
	27	金	実習室	午後	絵手紙ぶ〜け	10
5	3	木	実習室	午前	ワークショップ すてきなロゼットづくり	20
	8	火	実習室	午後	バレン・タ・in	7
	9	水	実習室	午後	水墨画05教室	2
	10	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	4
	12	土	ホール	午前	高鍋西小学校4年2組ワークショップ	60
	12	土	実習室	午後	実技 重ね切り絵	8
	12	土	実習室	午後	実技 パステル	7
	18	金	実習室	午後	絵手紙ぶ〜け	8
	19	土	実習室	午前	実技 デッサン	7
	19	土	実習室	午後	パステル画 自主講座	10
	22	火	実習室	午前	重ね切り絵 ぽっぽ	4
	24	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	5
	25	金	実習室	午前	絵手紙鶯草グループ	7
6	5	火	実習室	午後	バレン・タ・in	7
	8	金	ホール・実習室	夜間	看護の質工業のための研修会	132
	9	土	実習室	午後	実技 重ね切り絵	6
	9	土	実習室	午後	実技 パステル	5
	13	水	実習室	午後	水墨画05教室	2
	14	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	4
	15	金	実習室	午後	絵手紙ぶ〜け	9
	16	土	ホール	午前	高鍋東小学校5年3組ワークショップ	55
	16	土	実習室	午前	実技 デッサン	8
	16	土	実習室	午後	パステル画 自主講座	9
	20	水	実習室	午後	東児湯地区遊技業組合 県理事会報告等	13
	22	金	ホール	午前	社会保険算定基礎届及び年金制度等の説明会	44
	22	金	実習室	午前	絵手紙鶯草グループ	5
	26	火	実習室	午前	重ね切り絵 ぽっぽ	6
	28	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	4
7	10	火	実習室	午後	バレン・タ・in	8
	11	水	実習室	午後	水墨画05教室	2
	12	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	4
	14	土	実習室	午後	実技 重ね切り絵	8
	14	土	実習室	午後	実技 パステル	4
	15	日	ホール	午前・午後	子供映画会	120

7	20	金	ホール	午後	特別展 ルーヴル美術館の銅版画展 開会式	37
	21	土	実習室	午前	実技 デッサン	6
	21	土	実習室	午後	パステル画 自主講座	8
	24	火	実習室	午前	重ね切り絵 ぼっぼ	7
	25	水	ホール・実習室	午前	高鍋地区暴力団等追放協議会	61
	26	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	3
	27	金	実習室	午前	絵手紙鶯草グループ	8
	27	金	実習室	午後	絵手紙ぶ〜け	7
	28	土	ホール	午前・午後	夏休みふれあい映画祭	72
8	1	水	ホール・実習室	午前・午後	平成30年度 第34回高鍋町小・中学校教育職員研修会	120
	7	火	ホール	午前・午後	子ども教室 夏クラブ	59
	7	火	実習室	午後	バレン・タ・in	7
	8	水	ホール	午前・午後	東児湯学校保健研究大会	175
	8	水	実習室	午後	水墨画05教室	2
	9	木	ホール	午後・夜間	教育総務課 中学3年生講演 準備	15
	9	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	3
	10	金	ホール・実習室	午前・午後	教育総務課 中学3年生講演	200
	11	土	実習室	午後	実技 重ね切り絵	7
	11	土	実習室	午後	実技 パステル	4
	17	金	実習室	午後	絵手紙ぶ〜け	5
	18	土	実習室	午前	実技 デッサン	7
	18	土	実習室	午後	パステル画 自主講座	6
	23	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	3
	26	日	ホール・実習室	午後	特別展 ルーヴル美術館の銅版画展 講演会	37
	28	火	実習室	午前	重ね切り絵 ぼっぼ	7
9	1	土	実習室	午後	実技 重ね切り絵	8
	1	土	実習室	午後	実技 パステル	6
	15	土	ホール	午前	高鍋西小学校4年1組ワークショップ	36
	15	土	実習室	午前	実技 デッサン	9
	15	土	実習室	午後	パステル画 自主講座	5
	19	水	実習室	午後	水墨画05教室	2
	21	金	実習室	午後	絵手紙ぶ〜け	8
	22	土	ホール・実習室	午前・午後	平成30年度障がい者差別解消セミナー	98
	27	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	3
	28	金	実習室	午前	絵手紙鶯草グループ	8
10	2	火	実習室	午後	バレン・タ・in	8
	5	金	ホール	終日	明倫堂240年シンポジウム 準備	1
	6	土	ホール	終日	明倫堂240年シンポジウム 準備	6
	6	土	実習室	午後	パステル画 自主講座	7
	7	日	ホール・実習室	終日	明倫堂240年シンポジウム	200
	10	水	実習室	午後	水墨画05教室	2
	11	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	2
	12	金	実習室	午前	絵手紙鶯草グループ	8
	13	土	ホール	午前・午後	高鍋東小学校4年1組ワークショップ	43
	13	土	実習室	午前	実技 デッサン	10
	13	土	実習室	午後	実技 重ね切り絵	6
	13	土	実習室	午後	実技 パステル	6
	18	木	ホール	午後	宮崎県古墳講座2018リハーサル	2
	18	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	2
	19	金	実習室	午前	宮崎県古墳講座2018準備	2
	19	金	実習室	午後	絵手紙ぶ〜け	5
	21	日	ホール・実習室	午前・午後	宮崎県古墳講座2018	47
	27	土	ホール・実習室	午前	明るい社会づくり西都児湯推進協議会 講演会	65

10	30	火	ホール	夜間	高鍋町小中学校 保健委員会	194
11	3	土	ホール	午前	高鍋東小学校5年1組ワークショップ	39
	6	火	実習室	午後	パレン・タ・in	7
	10	土	ホール	午前・午後	宮崎県高等学校PTA連合会児湯地区委員研修会	102
	10	土	実習室	午後	実技 重ね切り絵	5
	10	土	実習室	午後	実技 パステル	6
	11	日	ホール・実習室	午後	草野ピアノ発表会	42
	13	火	ホール・実習室	夜間	宮崎銀行高鍋支店 講演会	56
	14	木	実習室	午後	水墨画05教室	2
	16	金	実習室	午後	絵手紙ぶ〜け	8
	17	土	実習室	午前	実技 デッサン	7
	17	土	実習室	午後	パステル画 自主講座	6
	18	日	ホール・実習室	午前・午後	ミール コンサート	45
	21	水	ホール	午後	高鍋地区社会保険委員大会	50
	22	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	1
	23	金	実習室	午前	絵手紙鶯草グループ	9
	28	水	ホール	午前・午後	第19回西都・児湯の子どもたちによる絵画展 審査	3
	30	金	ホール・実習室	午後・夜間	わかば保育園 発表会 準備	6
12	1	土	ホール・実習室	午前・午後	わかば保育園 発表会	547
	1	土	実習室	午後	実技 重ね切り絵	6
	1	土	実習室	午後	実技 パステル	6
	2	日	ホール・実習室	午前・午後	宮崎県自主防災組織長等研修会	60
	4	火	実習室	午後	パレン・タ・in	8
	7	金	ホール	午後	高鍋ロータリークラブ講演会	140
	9	日	ホール	午前	第19回西都・児湯の子どもたちによる絵画展 表彰式	100
	13	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	2
	15	土	実習室	午前	実技 デッサン	9
	15	土	実習室	午後	パステル画 自主講座	3
	20	木	実習室	午後	実技 写真表現講座	2
	21	金	実習室	午後	絵手紙ぶ〜け	7
	23	日	ホール・実習室	午前・午後	図書館Libライブ	102
1	8	火	実習室	午後	パレン・タ・in	6
	9	水	実習室	午後	水墨画05教室	2
	10	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	3
	12	土	実習室	午後	実技 重ね切り絵	7
	12	土	実習室	午後	実技 パステル	5
	13	日	ホール・実習室	午前・午後	国際ソロプチミスト オペラコンサート	211
	14	月	ホール	午前・午後	子ども映画会	90
	18	金	実習室	午後	絵手紙ぶ〜け	10
	18	金	ホール	夜間	看護連盟県北支部 研修会	53
	19	土	実習室	午前	実技 デッサン	9
	19	土	実習室	午後	パステル画 自主講座	6
	20	日	ホール	午前・午後	高鍋町美術協会 即興ライブ	112
	22	火	実習室	午前	重ね切り絵 ぽっぽ	6
	24	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	2
	25	金	実習室	午前	絵手紙鶯草グループ	9
	25	金	ホール・実習室	午前・午後・夜間	子ども図書まつり 準備	8
	26	土	ホール・実習室	午前	子ども図書まつり	102
	27	日	ホール・実習室	午前・午後	包括支援センター 認知症シンポジウム	300
2	5	火	実習室	午後	東児湯遊技業組合 研修会	8
	9	土	実習室	午後	実技 重ね切り絵	8
	9	土	実習室	午後	実技 パステル	5
	14	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	1

2	15	金	実習室	午後	絵手紙ぶ〜け	7
	16	土	実習室	午前	実技 デッサン	7
	16	土	実習室	午後	パステル画 自主講座	6
	26	火	実習室	午前	重ね切り絵 ぽっぽ	7
	26	火	実習室	午後	バレン・タ・in	6
	26	火	ホール	夜間	友愛社保育部十文字保育園 研修会	169
	27	水	実習室	午前	寺原聖山 書の世界 控室	10
	27	水	実習室	午後	水墨画05教室	2
	28	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	3
	28	木	実習室	午後	寺原聖山 書の世界 控室	5
	28	木	ホール	夜間	家庭学級閉級式	139
3	1	金	ホール・実習室	午前・午後	児湯ブロック民生委員児童委員研修会	175
	2	土	実習室	午前・午後	寺原聖山 書の世界 控室	5
	3	日	ホール・実習室	午前	NPO法人わたなべ 子ども食堂講演会	270
	3	日	実習室	午後	寺原聖山 書の世界 控室	5
	5	火	実習室	午後	バレン・タ・in	5
	10	日	実習室	午前	ワークショップ カラフルボトルを作ろう	23
	13	水	ホール	午前	西都民主商工会	92
	13	水	実習室	午後	水墨画05教室	2
	13	水	ホール	夜間	高鍋SSグループ主催 講演会	56
	14	木	実習室	午前	実技 写真表現講座	2
	15	金	実習室	午後	絵手紙ぶ〜け	7
	16	土	ホール	午前・午後	障がい者シンポジウム	170
	16	土	実習室	午前	実技 デッサン	8
	16	土	実習室	午後	パステル画 自主講座	4
	17	日	ホール	午前・午後	宮崎ピアノ 発表会	53
	20	水	ホール	午後・夜間	ナチュラルサウンズオーケストラ 準備	16
	21	木	ホール・実習室	午前・午後	ナチュラルサウンズオーケストラ コンサート	210

合計 6813

V 収蔵資料

1. 作品収蔵状況

分類		美術品									
		日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	彫刻	工芸	写真	その他	合 計
所蔵品数	寄贈	9	174	200	28	55	2	32	13	81	594
	寄託	8	2	1	2	133	2	66	0	16	230
	小計	17	176	201	30	188	4	98	13	97	824

(平成31年3月31日現在)

2. 資料の貸出 なし

VI 学芸員記録 (culture)

この「culture」は当館が実質的に主催した展覧会を、原則として主催者の立場で記録したものである。毎年、地域色のある展覧会を開催しているが、それに伴う図録の作成が実現できていないため、その特色を概観することを目的として記録している。

同じ目的をもって平成30年度より「デジタルアーカイブ（記録集）」を別途作成する事業をスタートした。本来図録を作るべき企画展においてその予算が得られなかった際、“データ上の”図録を作成するというものである。ウェブ上における情報の揮発性の高さや改ざんのリスクなどは認識しており、あくまでも暫定的な対処法であると考えている。なお、高鍋町美術館では、この“データ上の”図録も、最小限の部数は印刷保管している。加えて、国立国会図書館に納本している。

今回より、デジタルアーカイブを抜粋する形で明記するものとする。なお、全文は高鍋町美術館ホームページにて公開している。http://www.town.takanabe.lg.jp/material/files/group/17/darchive_20181027saitouten.pdf

はじめに

齋藤秀三郎（1922～）は社会批判を基軸として歩んだ美術家である。画業の前半は、人物画・抽象画を主とし、二科展（東京）に入選、市民芸術祭（福岡）市長賞の受賞を果たすなど、その実力はすでに評価されつつあった。しかし自身のスタイルを築き始めたのは、画業の後半、銅版画（メゾチント）でキャベツを描きはじめてからだった。制作の基調となっていたのは、人間社会と文明の関係性であり、60歳を過ぎてから90歳代後半となる現在まで、表現は変化し続けている。抽象表現が主流であった九州派のなかで、のちの齋藤の銅版画は異色の存在である。ジャーナリストの小林清人はこう述べている。

『真正の作品にあっては、文字通りの対象の模倣であれ、概念のうちにある対象の模倣であれ、そこでミメシスの算出的な活動が行われているという一点において、具象と抽象の区別は意味をなさなくなる。模倣は構成であり、構成もまた模倣なのだ。そのような洞察を手中にしたとき、おそらく齋藤さんは安んじて具象に回帰し得たのである。』¹

齋藤は、メゾチント作品のなかでキャベツと機器といった非現実的な組み合わせを具象で描写する画家として認知された。齋藤が生涯を通して主題としている「現代社会への警鐘」の表現において、様々な試みを行なった末に、齋藤は再び具象の意義を見出した。

齋藤作品については、近年では2015年に福岡市美術館で開催された「九州派展」にて九州派という文脈のなかで紹介され²、福岡市美術館の山口洋三氏、ジャーナリストの小林清人氏、アートディレクターの安部文範氏らによって、これまでに様々な形で研究が進められてきた。だが、それらには齋藤の生まれた故郷・宮崎のことは触れられておらず、齋藤の全体的な「芸術家像」は、未だ明らかにされていないように看取される。

本稿は、齋藤の生涯にわたる表現の変遷を整理しながら、齋藤の「キャベツシリーズ」に

¹ 「いっそうたえられよ、見通しつつも踏み留まる者」

齋藤秀三郎銅版画集 2017年7月30日刊行

刊行者 齋藤秀三郎 発行所 行光出版 印刷 博巧印刷 製本 洪田製本

² 「九州派展」福岡市美術館

2015年10月28日（水）～2016年1月17日（日）

「福岡市美術館業叢書 6 九州派資料集」

編集 福岡市美術館 発行（公財）福岡市文化芸術振興財団

制作・販売グラムブックス

おける社会批判的性格を明らかにすること、また、齋藤作品の評価の在り方について考察することを目的としている。

1. 宮崎から九州大学へ

齋藤は宮崎県西都市に生まれ、1935年に三股村長田尋常小学校を卒業した。当時の小学校時代のクラスメートとは近年まで交流があったようで、それによって齋藤の周りで増えていく死者=魂を、意識せざるを得ない状況となったことが推測される。³ 齋藤は、1942年に県立第一鹿児島中学校を卒業している。営林署に勤めていた齋藤の父は、この時期民間の会社に単身赴任している。中学校では図画の時間が楽しみで、当時から「見たものを具象で描くこと」には自信があったと齋藤は語っている。⁴ また、齋藤の中学校時代には高鍋町出身で歌人の安田尚義⁵が教鞭をとっていた。齋藤は直接安田の授業を受けることは無かったが、住まいが近所にあり、何度も自宅へ招かれるほどの交流があった。齋藤の妹・篤子の女学校入学の折、単身赴任の父に代わって安田が保証人となったというエピソードもある。

その後齋藤は、南満州工業専門学校鉱山工学科、三重海軍航空隊入隊、第七高等学校を経て、1952年に九州大学農学部水産学科を卒業した。濫獲により資源は容易に無くなることを知った齋藤にとって「社会の在り方を問う」という画家としての思想の原型は、このときに形成された。

2. 二科会・九州派時代

大学卒業後、水産関係の就職を辞退して福岡市内の中学校に就職した齋藤は、同じ中学校の美術教師と出会い美術に目覚めた。当時、齋藤は30歳。画家としてのスタートは遅いものだった。翌年、二科会会員の伊藤研介に師事する。同年より、福岡県美術展への出品を開始し、1955年（33歳）に第40回二科展に初入選をしている。この時期、齋藤は労働者や子どもなどを多く描いているが、その背景には労働条件の改善を希求する想いや、不当な搾取・抑圧などへの反抗心がうかがえる。

齋藤は第42回二科展に落選したことをきっかけに、九州派へ参加。元々、組合運動に熱心であった齋藤にとって九州派での活動は、作品のメッセージ性を強く認識する転機となった。目に見える形での表現は一転したが、二科展時代も九州派時代も、一貫していたことがあった。美術をもって社会に訴えることである。九州派は「反芸術」を含む組織論の色濃いグループであったため、その多くが抽象画を描いている。齋藤も石炭を混ぜた油絵具で描いた抽象画などを制作した。しかし、齋藤の手元には九州派時代の作品は1枚も残っていない。齋藤は「全部捨てた。保管する金も場所も無かった」と語るが、現在の心情から察する

³ 「魂（クラスメート）」2012年発表作品

⁴ 2017年7月23日 取材内容より（齋藤氏自宅にて・聞き手：青井）

⁵ 「高鍋町史」1987年6月1日発行

編者 高鍋町史編さん委員会 発行者 高鍋町 印刷 株式会社ぎょうせい

に、この時代の作品は、まだ齋藤の納得できるものではなかったことも理由のひとつではないだろうか。

その後、齋藤は九州派が休息状態に入ったことをきっかけに、グループ西日本に参加。抽象画で思うように表現できていない自身の模索を目的として、サム・フランシスやジャン・デビュッフェ等を研究した。1967年（45歳）には、第1回福岡市民芸術祭にて市長賞を受賞するなど、順風満帆のように見えたが、自身は依然葛藤し続けていた。他者の模倣でなく、自分にしか描けない表現を模索し、自信を持てずにいた。

3. 銅版画時代

1983年（61歳）、齋藤は福岡市立福岡商業高校の理科の教諭を定年退職した。厳密に言えば、福岡市立福岡商業高校では1963年（41歳）から美術の教諭も兼任している。理科では危険が伴うため緊張感をもって厳しい面持ちで教鞭をとったとのことだが、美術では常ににこやかな面持ちで教鞭をとり、楽しくてしょうがなかったと齋藤は語る。他教科の不得手な生徒達が、美術の時間は自主的に生き生きと学習が出来るように、色々な工夫を試みたようだ（なお、定年退職した同年、麻生学園専任の美術講師となっている）。1982年（60歳）から銅版画に着手し、キャベツというモチーフと出会う。キャベツで生命を表し機器で文明を表すという内容をメゾチント技法で制作することについて、「確かな手応えを感じた」と齋藤は振り返っている。銅版画制作は1992年（70歳）で一旦中止している。腱鞘炎で銅版画制作ができなくなったため、木版画やシルクスクリーンを制作した。この時期のキャベツをモチーフとした作品群は、その後生涯続く齋藤の画業の根幹を作り上げた。

4. 現在

齋藤は2000年（78歳）、福岡でのアートプロジェクト（宮司・アート参道プロジェクト）にて、棒の頭に生のキャベツを刺したものを50個並べたインスタレーションを発表した。インスタレーション自体には1970年ごろから少なからず取り組んではいたが、キャベツというモチーフを得て、これまでの制作経緯が実を結んだ形といってよい。2008年（86歳）の福岡アジア美術館での個展では、2000年のインスタレーションを彷彿とさせる展開を見せた。ここではキャベツを石膏で型取りしたものが作品の一部に使用されている。

2015年（93歳）に齋藤は家族・友人・知人の肖像と魂を描いた灯籠作品を発表した。これまで描いてきたテーマ「文明の暴走」をさらに展開させて、「魂の供養」に着目した作品である。それこそが文明の暴走を止められる数少ないものだ、と言わんばかりだ。供養という行為は、「魂」という目には見えないものに対して手を合わせる。人間の行為を数百年前まで遡り、また数百年後の未来まで想いを馳せる。そのような未来への僅かな希望を、「魂」に載せたように見受けられる。また、この灯籠作品には、齋藤作品としては長年のブランクを経て、抽象画も描かれている。クラスメートや家族の肖像画を具象で、その魂を抽象で描き、それをひとつの灯籠という立体物に盛り込むといったスタイルだ。

一方で、2017年（95歳）にはキャベツと機器を組み合わせたモチーフをアクリル画で制作を開始した。齋藤の「魂の供養」で得た前向きな展望を、銅版画の世界に描き加えるような行為に見える。かつて齋藤が「文明の暴走」を描くとき、色は「記号」としての役割に留まっていた（たとえば石膏のキャベツには信号の色が着色された）。これからその「色」が「記号」という役割を飛び出してどのような様相をもつかも、注目されたい。

齋藤は大学時代に現代社会の大きな課題に打ちのめされ、二科会時代からの「美術を介して訴える」姿勢は九州派時代によって勢いを高めた。齋藤にとって、九州派に参加したことは、ある意味では抽象画を強いられる不本意な状況だったのかもしれない。しかしそれによって齋藤が、それまでの具象表現だけでなく、抽象表現、インスタレーション（立体作品を含む）と、表現の幅を広げたことは否めない。

齋藤の現状に満足しない野心と自身を俯瞰する客観性は、表現の殻を破る原動力となった。その力は、格式的な具象画を描いていた齋藤に躍動的な抽象画を描かせた。さらに、抽象画を描いていた齋藤を解放させ革新的な具象画にのめり込ませた。

齋藤は、「生涯、物申す絵描きでありたい」と言うが、それを貫くために今自分に無いものを、あるいは自分の持てるものを、問い続ける姿勢が備わった。

今回の展覧会は、宮崎県西都市に生まれた美術家が、宮崎県内にて未だ取り上げられていない現状をきっかけに、齋藤の制作の経過を改めて整理し紹介することを目的として開催された。主要な作品群は紹介できたものの、その背景にある二科会時代や九州派時代の作品は展示しておらず、齋藤作品の芸術観を知る為に充分であったとは言い切れない。しかし、まずは九州派の美術家が宮崎出身者の中にもいたということを知らしめたい。そして、宮崎ゆかりの芸術家のなかでも、まさに社会派と呼ぶべき作品を制作する齋藤秀三郎の功績が今後一層認知され、評価されていくことを願いたい。

齋藤 秀三郎 年譜

1922 宮崎県西都市に生まれる

1935 宮崎県三股村長田尋常小学校卒業

父の仕事（営林署）の関係で小学校卒業まで山村で育つ。小学校4年の頃からクラス担任の影響もあり、絵に熱中する。

1942 県立第一鹿児島中学校（現 鶴丸高等学校）卒業

※県立第一鹿児島中学校で安田尚義（高鍋町名誉町民）に学ぶ
中学校では、図画の時間が楽しみだった。

1943 南満州工業専門学校鉱山工学科（大連）入学

1944 同校2学年の時、第二期海軍飛行専修予備生徒を志願し、三重海軍航空隊に入隊



海軍飛行予備生徒

1945 終戦 西都市へ帰省

帰省の途中、見渡す限り、焼け野原と化した広島の様状を目にする。

1946 （旧制）第七高等学校・理科に入学

1950 妹 篤子 没（享年 17 歳）

妹の死亡の悲しみは余りに深く、今に至るまで癒えることはない。

1952 （旧制）九州大学農学部水産学科卒業

福岡市立姪浜中学校（理科）に就職

大学では水産資源学教室。濫獲により資源は容易に無くなることを知る。

大学卒業時、示された就職先が寒いところだったので、寒さが苦手な私は市内の中学校に就職。そこで新進気鋭の美術教師との出会いがあり、猛烈に美術に目覚める。

1953 伊藤研介（二科会会員）に師事

第9回福岡県美術展（岩田屋ホール／福岡）

伊藤研之先生（二科会会員）に師事する。

その頃のモチーフは子どもや労働者だった。

1954 第10回福岡県美術展（岩田屋ホール／福岡）

1955 第40回二科展初入選（東京）



二科展出品の頃

1956 第41回二科展（東京）

1957 第13回福岡県美術展（岩田屋ホール／福岡）

第42回二科展に落選

「九州派」に参加

二科展落選の衝撃は大きかった。九州派のリーダー桜井孝身氏に会い、決意の程を話して九州派に入れてもらう。桜井氏曰く「俺たちは落選者を大切に作るグループなのだ」と、感動する。



九州派時代

1958 第14回福岡県美術展（岩田屋ホール／福岡）

第13回熊日総合美術展（熊本）

九州派街頭展（福岡県庁壁面）

第10回読売アンデパンダン展（東京美術館）

第1回九州アンデパンダン展（西日本新聞社講堂／福岡）

県展の審査制に反対して、九州派主催の「九州アンデパンダン展」を開催。

グループは革新の意気に燃えていた。

1959 第9回モダンアート展（東京）

第23回自由美術展（東京）

第2回九州アンデパンダン展（西日本新聞社講堂／福岡）

第3回九州派展（銀座画廊／東京）

九州派時代は掲載の写真以外は○や□をギッシリ並べた、いわゆる「集合空間」を描いていた。恐らく群衆という意識が底にあったのだろう。

第15回福岡県美術展（岩田屋ホール／福岡）

福岡県立盲学校に転勤

この時期、特殊教育に興味を覚える。

「グループ西日本」に参加

「グループ西日本」にて弥勒祐徳（画家・西都市在住）と出会う



グループ西日本の頃

1960 第1回グループ西日本・結成展（福岡丸善画廊／福岡）

グループ西日本・結成展（銀座画廊／東京）

尾方利男・齋藤秀三郎／二人展（銀座画廊／東京）

第2回グループ西日本展（福岡丸善画廊／福岡）

組合活動に熱心で、率先して大牟田労働争議にも泊まり込みで参加する。

九州派の運動がひとしきり続いた後、グループは休息状態に入り、この先を案じていた時期があった。その頃、会員の一人磨墨静量氏から別にグループを造らないかという相談を受けた。私は少なからず驚いた。私は組合活動にも熱心な桜井氏と考え方が近く、何等不満などなかったからである。しかし、今までのコンセプトが果たして抽象画で表現できるのか、かと言ってみんなが抽象へと進む中で、ひとり自分だけが具象を通す意志も弱く、悩んでいたのも、この機会に抽象を学ぶべく「グループ西日本」に参加することにした。

1961 第3回グループ西日本（丸善画廊／福岡）

1962 第4回グループ西日本展／小品展（福岡天神ビル／福岡）

第5回西日本美術協会展＊グループ西日本改称（新天会館／福岡）

1963 福岡市立福岡商業高校（定時制）に転勤

1965 第3回朝日賞油絵コンクール展（北九州市立八幡美術館／福岡）

集団21結成

集団21第1回展（福岡県文化会館／福岡）

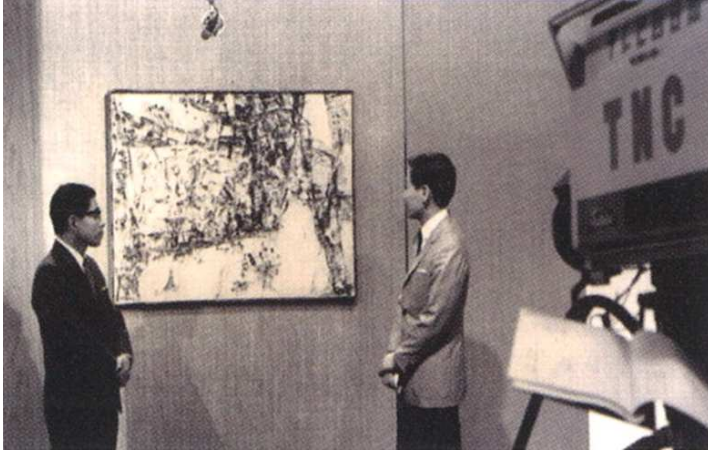
1967 第1回福岡市民芸術祭／市長賞（福岡）

集団21第2回展（博多井筒屋／福岡）

個展（福岡フォルム画廊／福岡）

当時の美術界はアンフォルメル旋風の時代、サム・フランシスやジャン・デュビュッフェ等を研究した。

- 1968 第2回福岡市民芸術祭／奨励賞（福岡）
「九州文学」8月号の表紙



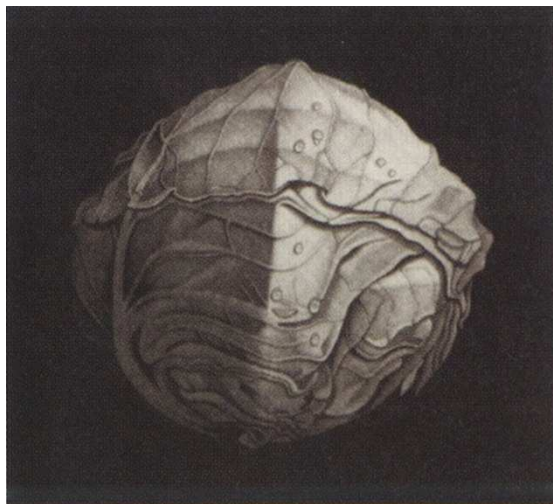
TNC テレビ西日本

- 1969 第3回九州・現代美術の動向展（福岡県文化会館／福岡）
1970 第4回九州・現代美術の動向展（福岡県文化会館／福岡）

この時期、初めてインスタレーションを試みる。

- 1972 福岡市民芸術祭招待出品
1977 今日の美術展
1981 個展（小倉井筒屋／福岡）
1983 福岡市立福岡商業高校退職
麻生学園・美術講師
1985 第1回和歌山版画ビエンナーレ展（和歌山）

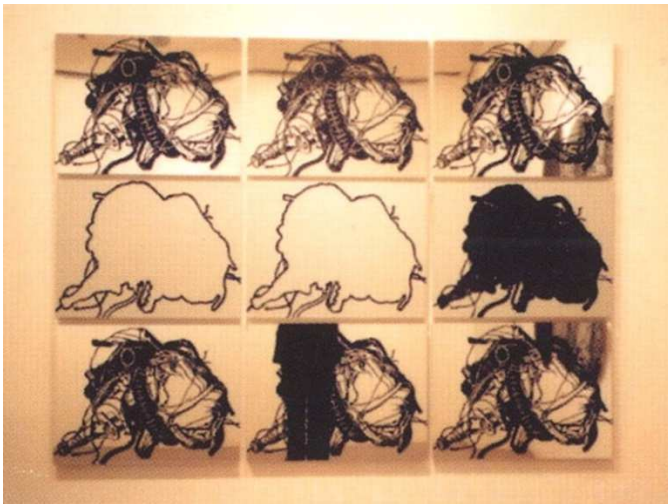
この頃、版画と出会う。メゾチント技法による銅版画を始め、表現の確かな手応えを感じる。



第1回和歌山版画ビエンナーレ展出品

- 1987 第18回現代日本美術展（東京）
第3回西武美術館大賞展（東京）

- 1988 九州派展（福岡市美術館企画／福岡）
 第11回グレンヘン国際版画トリエンナーレ展（ハルデンシュール／スイス）
 第2回リュブリン国際反戦芸術トリエンナーレ展
 （メダネク国立美術館／ポーランド）
 国内、外のコンクールに銅版画作品を出品し続ける。
- 1989 第18回リュブリアナ国際版画ビエンナーレ展
 （リュブリアナ近代美術館／旧ユーゴスラビア）
- 1991 第13回エンバ美術コンクール（エンバ中国近代美術館／兵庫）
- 1992 個展（福岡市美術館／福岡）
 第14エンバ美術コンクール展（エンバ中国近代美術館／兵庫）
 個展（シロタ画廊／東京）
- 1993 第15回エンバ美術コンクール展（エンバ中国近代美術館／兵庫）
 1993年から1999年の間、腱鞘炎のため、銅版画制作が出来なくなったので、木版画やシルクスクリーンの作品を制作。
- 1994 齋藤秀三郎版画展（久我記念美術館／福岡）
 第16回エンバ美術コンクール展（エンバ中国近代美術館／兵庫）
 妻 麻子 没（享年 65歳）
- 1997 個展（ギャラリーとわーる／福岡）



1997 ギャラリーとわーる（福岡）

- 1999 個展（ギャラリーとわーる／福岡）
- 2000 宮司・アート参道プロジェクト参加（宮地獄神社参道／福岡）
 宮司・アート参道プロジェクト（野外展）では、神苑に棒の頭に生のキャベツを刺したもの
 50個を並べて雨風に曝し、腐敗してゆくのを観るインスタレーション。
 個展（ギャラリーとわーる／福岡）
- 2008 個展（福岡アジア美術館）
- 2009 個展（アートスペース糺／福岡）
 村上勝氏の企画展「能古プロジェクト」参加（能古島／福岡）
 「能古プロジェクト」も野外展、若い作家たちとともに参加する。

個展（由布院駅アートホール／大分）

由布院駅アートホールでは、コピーして作った石膏のキャベツ、平面画、版画等によるインスタレーション。



2009 由布院駅アートホール（大分）

「能古プロジェクト・ドキュメント」展（アートスペース貌／福岡）

2011 個展（アートスペース貌／福岡）

2012 第7回津屋崎現代美術展（福津市／福岡）

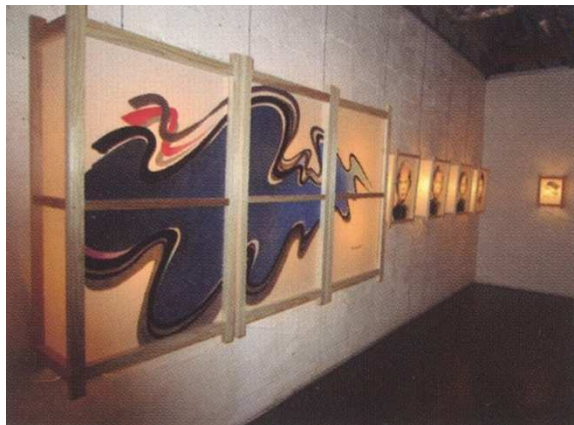
個展（アートスペース貌／福岡）

2014 個展（アートスペース貌／福岡）

2015 2人展「みじかなるもの・はるかなるもの」

黒岩俊哉／映像作家＋齋藤秀三郎／美術家（ギャラリーおいし／福岡）

次々に亡くなった家族・友人・知人の肖像と魂を描いた灯籠に、花を描いた絵を加えてインスタレーションを制作。



2015 ギャラリーおいし（福岡）

2017 齋藤秀三郎展・キャベツ 現代文明に対する不安（ラスチカス／東京）

「札幌国際芸術祭2017」・DOMMUNE SAPPORO 参加

個展（アートスペース貌／福岡）

注：それぞれの出来事の下に記載されている文（灰色・ゴシック体）は齋藤秀三郎自身がそれらの出来事について触れた文章である。

（齋藤秀三郎銅版画集 2017 年 7 月 30 日刊行

刊行者 齋藤秀三郎 発行所 行光出版 印刷 博巧印刷 製本 渋田製本 ）より

[写真提供]

齋藤秀三郎

企画展「96歳の現代美術家・齋藤秀三郎 文明キャベツ」

展覧会会場の様子



関連イベントの様子



VII 法令

1. 高鍋町美術館基金の設置、管理及び処分に関する条例

平成 11 年 3 月 24 日

条例第 7 号

(設置)

第 1 条 美術品の購入、特別展の開催及び美術館の健全な運営に資するため、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 241 条第 1 項の規定に基づき、高鍋町美術館基金(以下「基金」という。)を設置する。

(積立て)

第 2 条 基金として積み立てる額は、寄附金及び一般会計歳入歳出予算で定める額とする。

(管理)

第 3 条 基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により保管しなければならない。

2 基金に属する現金は、必要に応じ最も確実かつ有利な有価証券に代えることができる。

(運用益金の処理)

第 4 条 基金の運用から生ずる収益は、一般会計歳入歳出予算に計上して基金に編入するものとする。

(繰替運用)

第 5 条 町長は、財政上必要があると認めるときは、確実な繰戻しの方法、期間及び利率を定めて基金に属する現金を歳計現金に繰り替えて運用することができる。

(処分)

第 6 条 基金は、第 1 条に規定する目的のためにこれを処分することができる。

(委任)

第 7 条 この条例に定めるもののほか、基金の管理に関し必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

この条例は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

2. 高鍋町美術館の設置及び管理に関する条例

平成 11 年3月 24 日

条例第6号

改正 平成 15 年6月 23 日条例第 17 号

平成 18 年3月 24 日条例第5号

平成 24 年3月 21 日条例第1号

平成 30 年3月 20 日条例第 14 号

平成 30 年6月 18 日条例第 26 号

(趣旨)

第1条 この条例は、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 18 条及び地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の2第1項の規定に基づき、高鍋町美術館(以下「美術館」という。)の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 郷土の教育、学術及び文化向上に資するため美術館を設置する。

2 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
高鍋町美術館	高鍋町大字南高鍋 6916 番地 1

(事業)

第3条 美術館は、次の事業を行う。

- (1) 美術品及び美術に関する資料(以下「美術品等」という。)の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術品等に関する調査研究、展覧会及び講習会等の開催に関すること。
- (3) 美術館の施設及び設備を町民の利用に供すること、その他美術活動の援助に関すること。
- (4) その他町長が必要と認めること。

(管理)

第4条 美術館は、高鍋町教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第5条 美術館に館長その他必要な職員を置く。

(美術館協議会)

第6条 美術館の積極的な活用及び適切かつ円滑な運営を図るため、高鍋町美術館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員の定数は、7人以内とする。

3 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、教育委員会が委嘱する。

4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(観覧料又は共通観覧料若しくは使用料)

第7条 美術品等を観覧し、又は美術館の施設若しくは設備を利用しようとする者は、別表の観覧料又は使用料(以下「使用料等」という。)を納入しなければならない。

2 町長は、高鍋町歴史総合資料館及び高鍋町指定有形文化財黒水家住宅を美術館とあわせて観覧しようとする者に、別表に定める共通観覧料を適用することができる。

3 町長は、特に必要があると認める場合は、前項の使用料等の全部又は一部を免除することができる。

4 既納の使用料等は、還付しない。ただし、館長は、規則で定めるところにより、その全部又は一部を還付することができる。

(損害賠償)

第8条 観覧者又は使用者は、美術品等、設備若しくは備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、館長の指示に従い、現品又は相当の代価をもって賠償しなければならない。

2 町長は、情状により前項の損害賠償額の全部又は一部を免除することができる。

(指定管理者による管理)

第9条 美術館の管理は、地方自治法第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて町長が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に行わせることができる。

2 前項の規定により美術館の管理を指定管理者に行わせる場合、当該指定管理者は必要があると認めるときは、あらかじめ町長の承認を得て、美術館の休館日を変更し、若しくは別に定め、又は開館時間を変更することができる。

3 第1項の規定により、美術館の管理を指定管理者に行わせる場合は、第4条の規定中「高鍋町教育委員会(以下「教育委員会」という。)」とあり、及び第7条の規定中「町長」とあるのは「指定管理者」と読み替えるものとする。

4 第1項の規定により美術館の管理を指定管理者に行わせる場合において、当該指定管理者が美術館の管理を行うこととされた期間前にされた許可の申請は、当該指定管理者にされた許可の申請とみなす。

5 第1項の規定により美術館の管理を指定管理者に行わせる場合において、当該指定管理者が美術館の管理を行うこととされた期間前に許可を受けている者は、当該指定管理者の使用の許可を受けたものとみなす。

(指定管理者の業務)

第10条 指定管理者は、次の各号に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 第3条に規定する事業の実施に関する業務
- (2) 美術館の利用許可に関する業務
- (3) 美術館の維持管理に関する業務
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める業務

(利用料金)

第 11 条 町長は、第9条第1項の規定により美術館の管理を指定管理者に行わせる場合は、別表に掲げる美術館の観覧料又は使用料(以下「利用料金」という。)を当該指定管理者に収入として収受させることができる。

- 2 使用者は、利用料金を指定管理者に納めなければならない。
- 3 前項の利用料金の額は、指定管理者が別表に掲げる金額の範囲内で定め、町長の承認を受けなければならない。その額を変更するときも、同様とする。
- 4 指定管理者は、町長が定める基準に従い、利用料金を減額し、又は免除することができる。
- 5 指定管理者が既に収受した利用料金は、原則として還付することができない。
- 6 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、特に利用料金の還付が必要と認められる場合に限り、町長が定める基準に従い、利用料金の全部又は一部を還付することができる。

(委任)

第 12 条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、平成 11 年4月1日から施行する。ただし、第7条の規定は、平成 11 年 11 月3日から施行する。

附 則(平成 15 年6月 23 日条例第 17 号)

この条例は、平成 15 年7月1日から施行する。

附 則(平成 18 年3月 24 日条例第5号)

この条例は、平成 18 年4月1日から施行する。

附 則(平成 24 年3月 21 日条例第1号)

この条例は、平成 24 年4月1日から施行する。

附 則(平成 30 年3月 20 日条例第 14 号)

この条例は、平成 30 年4月1日から施行する。

附 則(平成 30 年6月 18 日条例第 26 号)

この条例は、公布の日から施行する。

別表(第7条関係)

(1) 観覧料

区分	観覧料
常設展	
1 大人	210 円
2 小中高生・高齢者・障がい者	100 円
3 小学生未満	無料
4 団体(20 人以上)	上記の額の 100 分の 80 に相当する額

特別展	町長が定める額
備考 1 高齢者とは、満 70 歳以上の者をいう。 2 障がい者とは、身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護同伴者1名をいう。	

(2) 共通観覧料

区分	観覧料
常設展	
1 大人	330 円
2 小中高生・高齢者・障がい者	160 円
3 小学生未満	無料
4 団体(20 人以上)	上記の額の 100 分の 80 に相当する額
特別展	共通観覧料の使用は除く
備考 1 高齢者とは、満 70 歳以上の者をいう。 2 障がい者とは、身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護同伴者1名をいう。	

(3) 施設使用料

区分	使用料	
	入場料を徴収しない場合	入場料を徴収する場合
回廊	1 日 500 円	1 日 1,500 円
	1 日 (1,000 円)	1 日 (2,000 円)
一般展示室	1 日 4,000 円	1 日 6,000 円
	1 日 (4,500 円)	1 日 (6,500 円)
企画展示室1	1 日 4,000 円	1 日 6,000 円
	1 日 (4,500 円)	1 日 (6,500 円)
企画展示室2	1 日 4,000 円	1 日 6,000 円
	1 日 (4,500 円)	1 日 (6,500 円)

多目的ホール	1日 8,000 円	1日 12,000 円
(展示のみ)	1日 (9,000 円)	1日 (13,000 円)
ただし、1日とは開館時間をいい、1日未満の端数があるときは、1日とみなす。下段の()内は、スポット使用時の料金		
多目的ホール	午前9時～正午 4,000 円 午後1時～5時 5,000 円 午後6時～10 時 5,000 円	午前9時～正午 6,000 円 午後1時～5時 7,500 円 午後6時～10 時 7,500 円
実習室	午前 500 円 ただし、午前とは午前9時から正午まで 午後 700 円 ただし、午後とは午後1時から5時まで	

(4) 設備使用料

区分	使用料
冷房(多目的ホール)	午前9時～正午 1,500 円
	午後1時～5時 2,000 円
	午後6時～10 時 2,000 円
暖房(多目的ホール)	午前9時～正午 1,000 円
	午後1時～5時 1,500 円
	午後6時～10 時 1,500 円
ピアノ(多目的ホール)	1日 1,000 円
持込電気器具用電気	1キロワットにつき 200 円(1日) ※持込電気器具に表示された電力に1キロワット未満の端数がある場合は、1キロワットとして算定する。ただし、電気器具が持ち込めるのは多目的ホールのみとする。

(注) 上記の観覧料、共通観覧料及び使用料は、消費税を含む。

※備考

- 1 使用時間は、準備及び後片付けに要する時間を含むものとする。
- 2 使用者が使用許可の変更により使用時間を延長しようとする場合は、1時間以内に限ることとし、その使用料は、それぞれの使用料の額に 100 分の 20 を乗じて得た金額とする。この場合、30 分以上は1時間とみなす。

3. 高鍋町美術館管理運営規則

平成 11 年 3 月 24 日
教育委員会規則第 1 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、高鍋町美術館の設置及び管理に関する条例(平成 11 年高鍋町条例第 6 号。以下「条例」という。)第 9 条の規定に基づき、高鍋町美術館(以下「美術館」という。)の管理運営について必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第 2 条 美術館の事務を行うため、美術館に総務学芸係を置く。

(分掌事務)

第 3 条 総務学芸係の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 文書に関すること。
- (2) 予算整理に関すること。
- (3) 美術館の施設及び設備(以下「施設等」という。)の維持管理に関すること。
- (4) 施設等の使用許可に関すること。
- (5) 美術館協議会に関すること。
- (6) 美術品その他美術に関する資料(以下「美術品等」という。)の収集、保管及び展示に関すること。
- (7) 美術品等に関する専門的な調査研究に関すること。
- (8) 美術に関する展覧会、講演会及び講習会等の開催並びにその奨励に関すること。
- (9) 美術に関する案内書、解説書及び目録等の刊行並びに広報に関すること。
- (10) 他の美術館等との連携、情報の交換及び美術品等の相互貸借に関すること。
- (11) その他美術館に関すること。

(職員)

第 4 条 美術館に次の表に掲げる職員を置き、必要に応じ教育委員会が任命する。

職	職務
館長	館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副館長	館長を補佐し、館長に事故があるとき、又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
係長	上司の命を受けて係の事務を掌理する。

主査	上司の命を受けて専門的業務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて複雑な業務に従事する。
主事	上司の命を受けて事務に従事する。

(事務処理等)

第 5 条 美術館における事務処理、職員の服務等については、教育委員会における取扱いの例による。

(美術館協議会)

第 6 条 高鍋町美術館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長各 1 人を置く。

2 会長及び副会長は、協議会委員(以下「委員」という。)の互選により選任し、その任期は、委員の任期とする。

3 会長は、協議会を代表し、会務を掌理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 7 条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

2 会議の議長は、会長が当たる。

3 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 前各項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の議決を得て会長が定める。

(専門部会)

第 8 条 協議会に専門的事項について調査、研究するため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会に属する委員は、会長が指名する。

3 専門部会に部会長を置き、専門部会に属する委員のうちから互選する。

4 部会長は、部務を掌理し、専門部会の調査、研究の経過及び結果を会議に報告する。

(庶務)

第 9 条 協議会の庶務は、美術館総務学芸係において処理する。

(開館時間等)

第 10 条 美術館の開館時間は、午前 10 時から午後 5 時までとする。ただし、多目的ホール(展示を除く。)の開館時間は、午前 9 時から午後 10 時までとする。

2 館長は、運営上必要があると認めたときは、前項の規定にかかわらず、教育委員会の承認を得て開館時間を変更することができる。

3 展示室の入室時間は、午前 10 時から午後 4 時 30 分までとする。

(休館日)

第 11 条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 毎週月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。)
 - (2) 休日の翌日(土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。)
 - (3) 12 月 28 日から翌年 1 月 4 日まで
- 2 館長は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て臨時に前項各号に掲げる休館日に開館し、又は開館日に休館することができる。
- (入館制限等)

第 12 条 館長は、美術館の管理運営上支障があるとき、又は入館しようとする者が次に掲げる行為をするおそれがあると認められるときは、入館を制限し、又は拒否することができる。

- (1) 美術館における秩序又は風紀を乱す行為
 - (2) めいてい等により公衆に迷惑をかける行為
- 2 入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。
- (1) 前項第 1 号及び第 2 号に掲げる行為をしないこと。
 - (2) 施設、設備及び備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められる行為をしないこと。
 - (3) 許可なく展示品に触れたり、写真撮影、模写等をしないこと。
 - (4) 指定する場所以外において喫煙をしないこと。
 - (5) 危険物、毒物及び動物等の携行持込みをしないこと。
 - (6) 美術館の管理運営に不相当と認められる行為をしないこと。
 - (7) 館内を不潔にしないこと。
 - (8) 所定の場所以外に出入りしないこと。
 - (9) 美術館の内外において許可なく物品を販売し、又は展示しないこと。
 - (10) その他関係条例、規則及び美術館の係員の指示に従うこと。
- 3 館長は、入館者が前項の規定に違反したときは、退場を命ずることができる。
- (使用許可)

第 13 条 美術館の施設等を使用しようとする者は、使用開始日の 10 日前までに施設等使用許可申請書(様式第 1 号)を館長に提出して、使用許可を受けなければならない。ただし、館長が必要と認めるときは、提出期限を変更することができる。

- 2 館長は、施設等の使用を許可したときは、施設等使用許可書(様式第 2 号)を交付するものとする。
- 3 館長は、美術館の管理運営上支障があるとき、又は使用許可を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、使用を許可しないものとする。
- (1) 施設等使用許可申請書の内容に偽りがあるとき。
 - (2) 営利を主たる目的とするとき。
 - (3) 美術館における秩序又は風紀を乱すおそれがあると認められるとき。
 - (4) 施設、設備及び備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
 - (5) 集团的又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれのある組織の利益になると認められるとき。

4 館長は、必要があるときは、使用許可に条件を付けることができる。

(変更の許可)

第 14 条 使用許可を受けた者は、使用許可の内容を変更(使用施設の変更を除く。)しようとするときは、施設等使用内容変更許可申請書(様式第 3 号)を館長に提出して、使用内容変更許可を受けなければならない。

2 館長は、前項の規定により変更の許可をしたときは、施設等使用内容変更許可書(様式第 4 号)を交付するものとする。

3 前条第 3 項及び第 4 項の規定は、第 1 項の規定による使用内容変更許可について準用する。
(使用者の遵守事項)

第 15 条 使用者は、第 12 条第 2 項各号に定めるもののほか、次に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 許可された使用の目的又は条件に違反しないこと。

(2) 施設等を使用する権利を他に譲渡し、又は転貸しないこと。

(使用後の検査)

第 16 条 使用者は、使用を終了したときは、自己の負担において直ちに施設等を原状に回復しなければならない。

2 前項の規定により施設等を原状に回復した者は、直ちに館長に報告して館長の指示による検査を受けなければならない。

(使用許可の取消し等)

第 17 条 館長は、使用者が第 13 条第 3 項各号のいずれかに該当するに至ったとき、又は第 15 条の規定に違反すると認めたときは、使用許可を取り消し、又は使用を中止させることができる。

2 前条の規定は、前項の規定による使用許可の取消し又は使用中止の場合に準用する。

3 第 1 項の規定による使用許可の取消し又は使用中止によって使用者に損害が生じて、町は、その損害の賠償の責めを負わないものとする。

(使用許可の取消しの申出)

第 18 条 使用者は、使用許可の取消しの申出をするときは、施設等使用許可取消申出書(様式第 5 号)を館長に提出しなければならない。

2 館長は、前項の施設等使用許可取消申出書の提出があったときは、当該許可を取り消し、その旨を申出者に通知するものとする。

(使用料)

第 19 条 施設使用料は、使用開始日の 10 日前までに納入しなければならない。ただし、設備使用料については、使用後に納入することができる。

(使用料等の減免)

第 20 条 条例第 7 条第 3 項の規定により、使用料等の全部又は一部を免除することができる場合は、次のとおりとする。

(1) 観覧料が全部免除になる場合

教育課程に基づく学習活動として入館する町内の小学校、中学校の児童及び生徒並びにその引率者が観覧するとき。

(2) 使用料が全部免除になる場合

ア 町又は教育委員会が主催する行事を行うために施設等を使用するとき。

イ 教育委員会の所管に属する学校がその行事として施設等を使用するとき。

(3) 教育委員会が相当と認める額が全部又は一部免除になる場合

教育委員会が特に必要と認めるとき。

2 前項の使用料等の免除を受けようとする者は、高鍋町美術館使用料等免除申請書(様式第 6 号)を館長に提出しなければならない。

3 館長は、使用料等の免除を許可したときは、高鍋町美術館使用料等免除許可書(様式第 7 号)を交付するものとする。

(使用料の還付)

第 21 条 条例第 7 条第 4 項の規定により還付することができる場合は、次の表のとおりとする。

区分	還付額
1 使用者の責めに帰することのできない理由により使用できない場合	既納使用料の全額
2 美術館の都合により使用許可を取り消した場合、又は美術館に入館できない場合	
3 使用前に使用許可の取消しがあり、その申出に基づいて館長が使用許可を取り消した場合	
4 一般展示室、企画展示室、実習室、多目的ホール使用開始日の 7 日前の日までに使用許可の取消しの申出があったとき。	既納使用料の 8 割

2 使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書(様式第 8 号)を館長に提出しなければならない。

(美術品等の館内利用)

第 22 条 図書資料は、館内の所定の場所において利用することができる。ただし、館長が移動できないと認めた資料については、その限りでない。

2 美術品等(図書資料を除く。)を学術の研究のため特に利用しようとする者は、美術品等特別観覧承認申請書(様式第 9 号)を館長に提出して、館長の承認を得なければならない。

(図書資料の複写)

第 23 条 図書資料の複写は、著作権法(昭和 45 年法律第 48 号)第 31 条の規定に基づき、調査研究の用に供するために公表された著作物の一部分について行うものとする。

2 図書資料の複写を依頼しようとする者は、図書資料複写申込書(様式第 10 号)を館長に提出しなければならない。

3 次に掲げる図書資料は、複写しないものとする。

(1) 技術的に複写が困難な図書資料

(2) 複写することによって損傷のおそれのある図書資料

(3) 前 2 号に定めるもののほか、館長が複写することを不相当と認めた図書資料

4 複写物の利用による著作権法上の責めは、当該複写物の提供を受けた者が負うものとする。

(美術品等の館外利用)

第 24 条 美術品等の館外貸出しを受けようとする者は、美術品等館外貸出許可申請書(様式第 11 号)を館長に提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、前項の規定により館外貸出しを許可したときは、美術品等館外貸出許可書(様式第 12 号)を交付するものとする。

3 前項の館外貸出しを受けることのできる者は、次のとおりとする。

(1) 公立の美術館、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 2 条第 1 項に規定する博物館及び同法第 29 条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設

(2) その他館長が適当と認める者

4 第 1 項の館外貸出しの期間は、30 日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めたときは、これを延長することができる。

5 館長は、美術館の都合により必要と認めたときは、前項に規定する館外貸出しの期間であっても、美術品等の返還を求めることができる。

(美術品等の寄贈及び寄託)

第 25 条 美術品等を寄贈又は寄託しようとする者は、美術品等寄贈寄託申出書(様式第 13 号)を館長に提出しなければならない。

2 館長は、前項の寄贈又は寄託の引受けを決定したときは、寄贈者又は寄託者に美術品等寄贈寄託受領書(様式第 14 号)を交付するものとする。

3 寄託を受けた美術品等は、美術館所蔵の美術品等と同様の取扱いをするものとする。ただし、天災その他不可抗力によって生ずる損害については、賠償の責めを負わないものとする。

4 寄託を受けた美術品等は、寄託者の申請又は美術館の都合により返却することができる。

(美術品の選定及び評価)

第 26 条 美術品の選定及び評価をするに当たっては、原則として高鍋町美術館美術作品等収集審査委員会の意見を聴取するものとする。

2 高鍋町美術館美術作品等収集審査委員会の組織及び運営については、館長が別に定める。

(販売行為等の禁止)

第 27 条 美術館の建物及び敷地内において、許可なく売店を設置し、又は販売をしてはならない。

(委任)

第 28 条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 10 条から第 28 条までの規定は、平成 11 年 11 月 3 日から施行する。

附 則(平成 17 年 8 月 10 日教委規則第 3 号)

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 21 年 2 月 5 日教委規則第 2 号)

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

4. 高鍋町美術館協議会規則

平成 11 年 3 月 24 日
教育委員会規則第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、高鍋町美術館の設置及び管理に関する条例(平成 11 年高鍋町条例第 6 号)第 6 条の規定に基づき、高鍋町美術館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第 2 条 協議会に会長及び副会長各 1 名を置く。

2 会長及び副会長は、協議会委員(以下「委員」という。)の互選とし、その任期は、委員の任期とする。

3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を行う。

(会議)

第 3 条 協議会の会議(以下「会議」という。)の議長は、会長がこれに当たる。

2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、会長の決するところによる。

(専門部会)

第 4 条 協議会に、専門的事項について調査、研究するために専門部会を置くことができる。

2 専門部会に属する委員は、会長が指名する。

3 専門部会に部会長を置き、専門部会に属する委員のうちから互選する。

4 部会長は、部務を掌理し、専門部会の調査、研究の経過及び結果を会議に報告する。

(庶務)

第 5 条 協議会の庶務は、高鍋町美術館において処理する。

(委任)

第 6 条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この規則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

5. 高鍋町美術館美術作品等収集審査委員会運営要綱

平成 11 年 3 月 24 日
教育委員会訓令第 1 号

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、高鍋町美術館管理運営規則(平成 11 年高鍋町教育委員会規則第 1 号)第 26 条の規定に基づき、高鍋町美術館美術作品等収集審査委員会(以下「収集委員会」という。)の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第 2 条 収集委員会は、教育委員会の諮問に応じて、次の各号に掲げる事項について調査及び審議を行う。

- (1) 美術資料の学問的価値に関すること。
- (2) 美術資料の評価額に関すること。
- (3) 美術資料の収集計画に関すること。

(組織)

第 3 条 収集委員会は、委員 7 名以内で組織する。

2 委員は、美術に関する学識経験者のうちから、教育委員会が委嘱する。

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第 5 条 収集委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選によりこれを定める。

3 委員長は、会務を総理し、収集委員会を代表する。

4 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指定する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 収集委員会は、教育長が招集する。

2 収集委員会の開催は、半数以上の委員の出席を必要とする。

3 教育長への報告は、原則として出席委員の全員一致の意見により行う。ただし、意見の一致が得られない場合は、各委員の意見を併記して報告する。

(臨時委員)

第 7 条 教育長は、美術資料の審議に関し特別に必要があると認めるときは、当該資料に関し専門的知識を有する者の出席を教育委員会に要請することができる。

2 教育委員会は、前項の要請があったときは臨時委員を委嘱し、当該資料に関する専門的調査を委託するものとする。

3 臨時委員の任期は、当該資料に関する収集委員会の報告が行われた日までとする。

(庶務)

第8条 収集委員会の庶務は、美術館において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、収集委員会の運営に関して必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この要綱は、公表の日から施行する。

VIII 名簿

1. 美術館協議会（平成30年度）

会 長	田中 等	宮崎彫刻グループ
副 会 長	巢山 和枝	高鍋商工会議所
委 員	加藤 秀文	高鍋町観光協会事務局長
委 員	財津 吉和	高鍋町自治公民館連絡協議会会長
委 員	堂 蘭 充郎	高鍋東小学校校長
委 員	永田 蝶	高鍋町文化協会会員
委 員	吉田 良美	高鍋町美術協会会員

2. 職員（平成30年度）

館 長	稲井 義人（～平成30年6月30日）
館 長	島埜内 遵（平成30年7月1日～）
副 館 長	鳥取 和弘
<総務学芸係>	
係 長	瀬川 芳一
主 事	三笠 俊史
学芸嘱託	青井 美保
事務嘱託	永友 裕子

令和2年3月印刷

令和2年3月発行

発行者 高鍋町美術館

宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋6916番地1

TEL (0983) 23-8887

印刷者 高鍋町美術館

宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋6916番地1

TEL (0983) 23-8887
